

会 議 録

会議の名称		令和5年度（2023年度）第1回つくば市学校防災推進委員会		
開催日時		令和5年（2023年）6月28日（水曜日） 開会15：30 閉会17：00		
開催場所		204会議室		
事務局（担当課）		教育総務課、学び推進課		
出席者	委員	森田充会長、吉沼正美副会長、柳下英子副会長、久保田靖彦委員、中野真粧美委員、茂在哲司委員、川瀬和恵委員、内野隆之委員、鬼塚宏一委員、美野本玲子委員、吉田和敏委員、水橋光一委員、山岡めぐみ委員、下田裕久委員、鈴木聡委員、柳町優子委員、岡野知樹委員、中島澄枝委員、澤頭由紀子委員、石橋充委員		
	その他	長屋和宏		
	事務局	教育総務課：課長補佐 飯村賞賜、係長 光田和則、主任 谷沢潤一郎 学び推進課：指導主事 横山賢裕		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0名
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 学校防災推進委員会の概要について (2) 令和5年度（2023年度）学校防災事業計画について (3) 学校防災手帳の概要について (4) 学校防災訓練の在り方について		
会議録署名人			確定年月日	平成 年 月 日
会議	(1) 学校防災推進委員会の概要について (2) 令和5年度（2023年度）学校防災事業計画について			

次	(3) 学校防災手帳の概要について
第	(4) 学校防災訓練の在り方について

< 審議内容 >

1 開会

事務局：本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

本日の会議は、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例に基づきまして、会議を公開いたします。

また、会議録を作成してつくば市のホームページに公開する予定でございます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

それではただいまから令和5年度第1回つくば市学校防災推進委員会を開会いたします。

開会にあたりまして、会長である教育長から挨拶申し上げます。

2 会長挨拶

教育長：皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、皆さんにお集まりいただきまして、ありがとうございます。

この会議は皆様も御存知のように東日本大震災の後、児童生徒の防災対応能力の向上、学校の防災体制の整備と、その一層の向上という趣旨のもとに作られた会議でありますけれども、最近是全国的に非常に災害が多いということで、石川で大きな地震がありましたし、茨城県でもありました。大雨についても、線状降水帯の関係で、各地で水害があり、茨城県でも牛久沼の方で水害が起こったというようなことがありました。

身近な地域でも大規模な災害が起こる可能性があるというところで、私たちはさらに学校の防災体制、意識の向上を進めていかなければならないと思っています。

本日は各学園の学校防災に関する取組、また防災推進委員会の事業である防災手帳

の作成事業についての報告もありますけれども、今後考えることとして、避難訓練を含めて、防災体制という意味で、懸念されることなども出し合って、さらに改善できることについて改善していく、そういった会議にしたいと考えておりますので、皆様の忌憚のない御意見を頂戴して進められればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

3 議事

事務局：ありがとうございました。つくば市学校防災推進委員会設置要綱第3条第1項及び第2項に基づきまして、これからの議事の進行は会長である教育長にお願いいたします。

会長： それでは会議の方を進めさせていただきます。スムーズに進行しながら、かつ、内容の濃いものにしていきたいと思いますので、皆様の御協力よろしく願いしたいと思います。

ではこの議事に従って進めて参りたいというふうに思います。まず(1)の学校防災推進委員会の概要についての説明について、事務局の方でお願いしたいと思います。よろしく願いします。

(1) 学校防災推進委員会の概要について

事務局：本日、ご説明を務めさせていただきます教育総務課谷沢と申します。着座のまま失礼いたします。

まず、学校防災推進委員会の概要についてご説明いたします。資料1をご覧ください。地域との連携による学校の防災力強化推進事業に基づきまして、こちらの会議が設定されております。

こちらの目的と組織について触れさせていただきます。

目的としましては、大規模地震等の災害に対する児童生徒の防災対応能力の向上及び学校の防災体制を充実させるため、学校と地域の連携を推進し防災力の強化を図るものです。

主な組織は2つございまして、1つがこの学校防災推進委員会、委員会を組織しまして、防災力強化を推進すると。さらにこの防災推進委員会が中心となって、研修会や様々な取組を実施しまして、教職員や児童生徒の資質向上と実践力の養成を図るものです。主な事業内容としては、防災推進委員会の開催や研修会の開催、学校防災手帳の作成が挙げられます。

続きまして、学校防災連絡会議というものがございまして、学校を単位として、より地域と連携した避難訓練、外部講師を活用した防災教室等を実施することで、児童生徒や地域住民の能力や実践的な態度の育成を図るものです。

通常の避難訓練や防災教室、或いは体験活動などを学校ごとに行って、防災力の強化推進を目指しております。

続きまして資料2をご覧ください。こちらはつくば市学校防災推進委員会の設置要綱になります。この設置要綱に基づき推進委員会が組織されております。

大規模地震等の防災能力向上推進を適切かつ効果的に推進するために、推進委員会を設置し、学校の防災教育の充実や、防災教育の展開、整備充実等々を議論しております。

こちらにつきましては、第3条以降は省略させていただきますが、こういった目的のもと設置されているということで御紹介させていただきました。

説明は以上になります。

会長：ありがとうございます。資料1について説明をいただきましたけれども、何か確認したいこと等ありましたらまずお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。ここは特によろしいですか。

それでは(2)の方に進みまして、令和5年度学校防災事業計画について、引き続き事務局から説明をお願いします。

(2)令和5年度(2023年度)学校防災事業について

事務局：続きまして、(2)番の令和5年度、2023年度学校防災事業計画について説明いたします。資料3をご覧ください。

こちらが令和5年度に推進委員会として計画している行事でございます。第1回の学校防災推進委員会を本日開催しております。

続きまして第2回が令和6年の2月に開催予定でございます。こちらはお日付が近づきましたら、改めて御案内いたします。

続きまして、学校防災研修会を令和5年中に開催を予定しております。

こちらは1年に1回開催している教職員や地域の方々を対象とした防災に関する研修会になります。続きまして、学校防災手帳の作成というものがございまして、こちらは、毎年3校から4校程度を対象に、その学区の地図を作成し、そこに防災の情報等を追記したものになります。こちらの取組については後程詳しく説明いたします。

資料4も続きましてご説明いたします。資料4は令和5年度の事業計画という形になりまして、こちらが学園と学校ごとのそれぞれの避難訓練の計画について、示させていただいたものでございます。

内容は多くの学園で水平展開されているものですので、代表として、大穂学園を取り上げさせていただきます。

一番上に大穂学園全体で、学園ごとで行うものございまして、こちらが学園合同の引き渡し訓練と学校防災連絡会議を2回ほど予定しております。

続きまして学校単位の取組に参りますが、大穂学園の学校を例としますと、避難訓練を年4回ほど、行っておりまして、その他、引渡訓練と、先ほど申し上げた学校防災連絡会議があります。

教職員研修でもAEDのやり方を取り扱っておりまして、学校の授業では小学校で防災バックや防災マップの作成をしております。市内、全校で同じような計画で進めておりますものですので、各校御覧いただければと存じます。

こちらは同じ取組になりますので、こちらの紹介は以上とさせていただきます。

こちらで令和5年度の取組について説明は以上になります。

会長：ただいまの説明について確認したいこと、御意見ありましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。要小のその防災啓発ビデオはどんなものか確認していますか。

事務局：避難方法のビデオを鑑賞するという報告をいただいています。ビデオの製作主体等、詳細な情報は把握しておりませんが、そのような取組であると報告を受けています。

会長：分かりました。他はいかがでしょう。中野委員どうぞ。

中野委員：義務教育学校が4校とも載っていないようですが、これは各校が提出していないということでしょうか。

事務局：事務局でございます。御指摘ありがとうございます。

こちらは提出いただいております、資料作成の際に義務教育学校の記載が抜けてしまったと思われま。

こちらについては、義務教育学校を追加したものを、後ほど会議録作成の際に通知いたします。大変失礼いたしました。

会長：では後ほど追記して配布するというところでよろしく申し上げます。

他にありますでしょうか。どうぞ。

内野委員：市P連の内野ですが、学校防災研修会というのは、どこが主体になって実施するものでしょうか。

事務局：こちらに関しましては、学校防災推進委員会が主体となって、事業担当課である教育総務課が企画を立案しまして、市で主催している研修会でございます。こちらにつきましては、防災に関する講師の方をお呼びして、過去2年度はオンラインで学校や地域の方々のお宅を繋いで講演を行うかたちです。例年、秋頃に開催を検討しております、日付が近づきましたら改めて御案内をいたしますので、御参加いただければ幸いです。

内野委員：特に学校ごとに実施するというわけではなく、オンラインで開催して全学校、全学園の関係者で聴講するというかたちですか？

事務局：お見込みの通りでございまして、講師の方と学校の代表者の方、或いは地域の方がそれぞれオンラインで繋がっての参加をいただいて、講師の講演を聴講いただくというかたちになっております。

会長：今年はオンラインになるのか、対面になるのかというのはまだ検討中でしょうか。

事務局：状況を見つつ対面かオンラインかを検討していく形でございます。

会長：よろしく申し上げます。他にはありますでしょうか。では次に進めて参りたいと思います。(3)番の学校防災手帳の概要について、事務局で引き続き説明をお願いします。

(3) 学校防災手帳の概要について

事務局：つくば市学校防災手帳の作成について説明いたします。資料5をご覧ください。学校防災手帳作成の目的としまして、携帯できる防災手帳を児童生徒に提供し、日常生活や授業に活用してもらうことで、児童生徒の及び保護者の自助共助の意識の向上に資することを目的としております。

ハザードマップ等の行政機関が発行している情報と、つくばスタイル科の防災単元での児童の学習成果を組み合わせ、携帯できる防災手帳を作成するものです。

行政の地図と、これまでつくばスタイル科等の町探検で危険な箇所について子供たちが調べてきて模造紙などを貼って発表していたもの、子供たち目線で見つけてきた危険な箇所等の情報を組み合わせ、子供たちが見つけた情報を有機的に活用しようということで作成を進めております。

今年度は秀峰筑波義務教育学校、二の宮小学校、高崎中学校で作成を予定しております。これまでの策定校はお示した通りでございまして、市内のおよそ半数の学校で作成してきました。学校では子供たちのデータの収集に関わる連絡調整と、実際に作成、配布するにあたって、まち探検で見るとべきポイントや、或いはどのような考え方で作成を進めていけばいいかということについて、授業の中でも触れていくかたちで進めております。

こちらの防災手帳につきましては、国土交通省国土政策総合研究所の協力のもとに作成しております。防災に係る様々な情報や、110番の家等の地域の情報を入れて作成しております。概要の説明としては以上となります。

会長：ありがとうございました。防災手帳作成について御意見や質問等ありましたらお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

内野委員：3校が今年の対象になっていますが、なぜ3校なのでしょう。一気に全校に展開しても良いのかと思いますが、やはり予算の問題で3校限定なのでしょう。

事務局：御質問ありがとうございます。お見込みの通り、予算の問題がひとつと、地域に合わせて作成をしている都合上、データの収集についても、学校で収集したものを私どもでこれは掲載すべき情報かどうか、どのように掲載するかなどの精査を行って学区の地図に載せ込むという作業をしておりますので、水平展開で全校を一度に作成することは難しい状況でございまして、年に3校、4校ずつ展開しているという状況でございます。

内野委員：吾妻学園などは安全互助会の補助金で手帳を作ったと聞いていますけれども、まだ学校単位で作っていないというところは、例えば補助金等を使って自分たちで作ることは可能でしょうか。

事務局：ありがとうございます。おっしゃる通り、まだ御希望いただいていない学校や、或いはPTAさんの方で独自にお作りになりたいという学校もございまして、そういった学校では、補助金や、或いはPTAの活動費を使用して、類似の防災マップをお作りいただいている事例もございます。

経費を活用して類似の防災マップをお作りいただいているという学校さんはお示しした以外にもございますが、市の事業の学校防災手帳として作成しているのはこちらに挙げさせていただいている学校が、これまで対象になっていたというところでございます。

内野委員：既に作成している学校は、今後は作成対象から外れていくという理解で

よろしいですか。

事務局：ありがとうございます。取組としては未作成の学校を優先して作成するというを進めておりまして、今後、すべての学校で初版を作成したと言う暁には、例えば作成してから年数が経っている学校もございますので、更新版を作成するなどの取組ができればと考えております。今のところは作成したことのない学校に対して、優先して作成するというで進めています。

会長：長屋先生どうぞ。お願いします。

長屋先生：国総研の長屋と申します。今の説明を補足させていただきます。これまでの作成校および今年度の作成校の説明がありましたが、毎年作成校の選定は、手挙げ方式で作成を希望する学校の調査を年度当初にしており、手を挙げた学校から、地域特性や予算等を踏まえて行っています。

また、安全互助会の補助金と吾妻での制作の話が出たので、吾妻の取組にも私は、当初から現在に至るまで係わっており、状況を知っているので補足させていただきます。

まず、防災手帳自体は、資料にもあるとおり吾妻で最初に作られ、本委員会で非常にいい取組であるとの評価をいただき、水平展開が進められてきたという状況です。そのため、吾妻は、先ほどの調査に対しては、手を挙げていません。一方で、防災手帳の改訂は、PTAやおやじの会の取り組みとして進めてきています。

具体的にはこれまでに4度の改訂をしておりますが、本委員会の取組として改訂していただくことは難しいと、吾妻の関係者も分かっていますので、その都度、助成金などを申請、獲得しています。

会長：ありがとうございます。この事業にはそのような歴史があるわけですがけれども、吾妻小が県の防災のモデル校になった時に長屋先生を中心に作成いただいて、県でも評価が高く、このような取組をぜひ進めましょうという流れになり、つくば市で続いてきたということでございます。他にありませんでしょうか

長屋先生：続けてご説明差し上げます。私が、今年の6月に行われた「防災教育学

会」の発表会の場で、「つくば市学校防災推進委員会」の取組と「つくば市学校防災手帳」について発表をしました。なお、本発表は、学校防災手帳の取組を説明できる資料がないと前々から感じていましたので、それを論文としてまとめたものです。

今回の発表は、事務局より先程説明頂いた学校防災手帳の概要と作成の流れですが、学会で非常にたくさんの反響や質問を頂きました。大きく2点あり、1つ目は、つくば市学校防災推進委員会という取組そのものが、他の自治体や学校の先生方から見ると、とても素晴らしい取組だということの評価を頂きました。

また、防災手帳をサンプルとして、5部ほど持って行きましたが、大勢の方が欲しいと来て、全く足りず、15部ほど後からお送りしました。

2つめとして、防災手帳そのものにもとても評価をいただきました。例えば、兵庫県のとある小学校からは、ぜひ作りたいので一緒にやらせてくれないかという話をいただいたりもしました。つくばの取組に対して、とても注目をいただきましたので、御報告をさせていただきます。

会長：ありがとうございます。大変評価されている取組だということは、茨城県の中で見てもそのような捉えかたをして頂いていましたが、全国的に見てもそうだとということで、本当にありがたい、嬉しい話です。他にはいかがでしょうか。よろしいですか。

今年は秀峰筑波義務教育学校が入っておりますので、広い学区の中で作るに当たって、どう作ったらいいんだろうというのが非常に悩みどころかなとは思いますが、そのあたりも工夫しなければいけないと思います。

また各学校ではこの手帳に限らず様々なマップを作ってくれて、それを手帳にしたり、学校に掲示したり、本当に工夫してくれているなと思って見えています。昨日竹園東小学校に行きましたが、そちらでも掲示していました。あれは手帳よりもさらに細かい内容でしたね。本当に先生方の意識が高いんだなというのを感じました。その他よろしいでしょうか。

(4) 学校防災訓練の在り方について

会長：それでは、次に進めさせていただきたいと思います。次は、学校防災訓練のあり方ということで、資料6を御覧いただけますでしょうか。

私は東日本大震災の時には、県の教育庁に勤めておりました、東日本大震災が起って私が一番苦労したのは、災害の状況がどうなっているんだろうと、各学校は無事なんだろうかと、電話連絡がほとんどできず、各学校にやっと連絡がついた時に、各学校も保護者と連絡がつかなくて困っているというのがあったんですね。

そのときにみんなで話し合ったのは、想定外のことがたくさん起こったということだったんですね。その想定外のことが今後も想定外のままでは駄目で、想定外を想定内にしなきゃいけないと。そのための組織を作ったり、避難訓練を行ってもらおうという考え方で、ずっと進めていたわけですがけれども、それから10年以上がたつて、避難訓練も何となく形骸化してしまってきて、想定外とされてきたことを意識しながら、避難訓練が行われているんだろうかということが、私の中でもありまして、この委員会をどう進めようかというなかで、そういったことが話題になったわけです。

例えば多くの学園がどのように訓練をしているかという、資料に例が載っていて、このように例を出しているんだけど、資料の中で、検討するポイントの3番にあります、地震発生時に放送が使えなかったらどうするんだと、おそらく使えなくなる可能性が高いと。例えば雨が降ったら、いつも外へ出ることを前提にしているけれどもどうなるのだろうか、児童生徒が教室ではないところにいる場合や、教室にいないときに地震が起こったらどうなるんだろうかという、様々な場面を想定して避難訓練を行っているんだろうか、と。

もし行っていないとしたら、この場で議論していろいろと留意しながら計画を作らなきゃいけないなということを発信できればと思ったわけなんです。

事前に皆様の部署、各委員の方々のなかで、もしもの場合を想定しているんだろうかとか、心配していること、それから、こういった避難訓練をしなくてはいけな

いと思っているようなことを、ここを出し合って、それに対して解決策を議論しながら、各学校に発信できたらいいのではないかと考えたわけで、御協力をいただきたいと思います。意見のあるなしに係わらず、全ての委員さんにお伺いしたいと思います。

まずは教育局以外の部署の方にお聞きをしたいと思いますので、御協力をお願いしたいと思います。

では名簿順で中野委員からいかがでしょうか。小学校の中で行っている避難訓練で、こういうところが懸念事項だというのがありましたらお願いしたいと思います。

中野委員：各学校では職員も想定を把握して避難訓練を行いましょ、ということは意識して行っていると思います。地震、火災、それから竜巻と。放射能に関する避難訓練は、コロナ禍になってからもしかすると最近は行っていない学校が増えてきているのかなという感じがします。

不審者に対応した訓練については、すごく悩んでいる学校が多くて、不審者が入ってきたことを想定して、実際に警察のOBのスクールサポーターさんに不審者役をしていただいたり、実際に警察の方に不審者役をしていただいたりしておりますが、実際に教室に入った際に、子供が怖くなってトラウマになってしまうというようなことがあって、最近は実際には教室の方には入らずに、子供たちから見えない場所で、職員がたまたま想定した不審者に対応しているという形で実施している場合が多いかなと思います。

ただそうすると、子供たちは全然知らないところで何となくただ放送を聞いて、教室の中でバリケードを作ったり、安心安全が確保された後に避難したりとか、そういうことをしていますけれども、不審者対応の訓練で、どのような訓練をすれば子供たちに有効なのかというのは、各学校で悩みながら、様々なパターンで実施しているというのが今の状況かなと思います。

会長：ありがとうございます。確かに不審者役とって、サングラスをかけていか

にも悪そうな人物が入ってきて、不審者に対応しているというパターンが多いように思います。

でも、先日どこかの高校で起きた事件ではふらっと入ってきていきなりですからね。そういうことも想定すると、どのようにするかは考えなくてはいけない。

茂在委員、いかがでしょうか。

茂在委員：引渡訓練を毎年行っていますが、それぞれ学園ごとに日にちがずれるので、緊急メール配信がスムーズに流れるんですけど、市内全部で引き渡しとなった時には、例えばコロナの時にも一斉に学校から流してくれという指導、指示があったけれどもなかなか繋がらない、それから保護者にメールが届くのが2時間、3時間遅れということが多々ありました。実際に市内全域で引渡しとなった時に、各学校でメール配信をしても保護者に届くメールがかなりの時間差があって、スムーズな引き渡しができないというところが一番懸念しているところでもありますので、保護者への連絡の手段を模索していく必要があるのかなというところがございます。

会長：ありがとうございます。川瀬委員、幼稚園のことを中心に考えたとき、何か心配なことがあれば。

川瀬委員：幼稚園も毎月のように避難訓練をしております。引渡訓練は各園しております、小中と連携をとって、中学校、小学校を引渡ししてもらってから、幼稚園に迎えに来てもらうということをしております。

年度当初には、震度5以上の地震があった場合には連絡がなくても迎えに来て欲しいという通知をして、連絡があってから迎えに来るのではなく大きな震災があったときには、連絡つかないこともあるのでということを知りたり、言葉でもお話しして説明をしています。また、園バスでは、地震が起きた際に私も乗っていましたが、船のようにすごく揺れたんですね。バスの運転手さんとも連携をとって、大きな地震が来た際には広いところで止まって待ってもらう。揺れが収まったら幼稚園に戻ってきて引き渡すということを保護者にも通知をして、

年度当初の説明、入園式にも保護者に説明をするので、大きな地震があった際には幼稚園に戻るので迎えに来て欲しいということを知っております。先ほどの不審者の件なんですが、幼稚園も心配しております。小さい子たちなのでおどかさずではなくて、実際には警察の方に御協力いただいてサングラスをかけてきて付近をウロウロしているところから始まって、子供たちには合言葉を、例えばアンパンマンが来たよと、あんまり刺激にならないように内緒の声でお話をして、子供たちを部屋に避難させて鍵を閉めてカーテンを閉めるというところまでが子供たちの避難で、そのあとは職員で、警察の方とのやりとりをしたり、距離をとったほうがいいなど御指導を受けながら毎年実施しています。

子供たちの命と預かっている大切な命を守っていききたいと考えております。以上です。

会長：内野委員は保護者の目線から心配なことなどありましたら。

内野委員：御指摘にあったように色々なケースを考えて訓練をやっていく必要があるのだと思います。今は、通常授業をしている時に地震や火事が起きたという想定で実施される場所が多いと思いますが、実際はそうではないケースもあり得るので、そのあたりも考慮して実施していただきたいと思います。

防災倉庫については市の防災倉庫がありますし、私は谷田部東中ですがPTAとしても独自に用意している防災倉庫があります。ただ、倉庫はあっても、実際に使う機会がなかなかありません。市の防災倉庫は、確かコロナ禍の前は市の担当者が実際に物を出して、機材をどうやって使うかとか、レクチャーする機会があったと思うのですが、コロナ禍以降は中止されたのか、その辺はよく分かりません。実際に設備があっても本番で使えないとどうしようもないので、谷田部東中の場合は今年夏にPTAやおやじの会が主催で防災キャンプを実施して、実際に物を使ったり、テント泊したりするイベントを計画しています。それを通して、使い方等を子どもや保護者に学んでもらえればと思っています。

また、実際に大震災が起きた場合、学校の校庭が地域の避難場所になると思うので

すが、その際の学校やP T Aの役割について、具体的なプランは立てられているのかなという懸念はあります。

会長：ありがとうございます。地域の方の避難となると、学校だけの問題ではなくなってくるので、そのようなところは後ほどお聞きしたいと思います。美野本委員は市民部目線で何かありましたらお願いしたいと思います。

美野本委員：市民協働課美野本と申します。私の課は地域との連携という関係で出席させていただいているのかなと思うのですが、学校の事業計画や実績を拝見させていただくと、避難訓練等の対象に地域の方々という記述があるんですが、質問になってしまいますが、地域の方々というのはどういう方を想定しているのかというところと、実際の有事の場合にその地域の方々にどのように連絡を差し上げるというような仕組みができているのかと伺えればと思います。

私どもでは区長会等を担当しておりますので、区長の方々にどのような心構えで、もしかしたら既に仕組みが浸透しているのかもしれないのですが、学校との連携に当たってどのような心構えで地域を代表する区長の方々が仕組みに入ればいいのかというようなことを伺えればありがたいと思います。

会長：このことはなにか答えられますか。それでは柳下委員どうぞ。

柳下委員：美野本委員が仰った有事の際の連絡の仕組みですが、これについては東日本大震災のときに緊急連絡メールを配信しましたが、配信出来なかったケースが発生しました。その時の教訓を生かして、震度5弱以上の地震が発生した場合には連絡がなくとも学校に迎えに来て引き渡すということで、各学校で実施していると思います。ただ、連絡がつくかどうかは有事の場合になってみないと分からない側面があります。また区長の方々と連携につきましては、竹園学園の地域では短期で任期が終わってしまう、代わってしまうという運営をされていることが、コミュニティスクールの会議を開いて分かったことで、必ずしも学校が区長さんとの連携を頻繁にしているわけではないので、これからの課題として、連携の部分をどのようにしていくかということになってくると思います。以上です。

美野本委員：私は数年前に教育総務課としてこちらの会議に参加させていただいていましたが、やはりその頃から区長の方々との連携というところが課題になっていまして、短いスパンで代わってしまい、引継ぎがなかなか難しいところがありますので、担当課としてもそうした課題があることを心に留めて、御協力できればと思います。

会長：そのあたりの連携を考えないといけないということですね。それではこども部の目線で吉田委員、いかがですか。

吉田委員：こども部こども育成課の吉田と申します。我々は児童館や児童クラブを担当している課でございます。児童生徒が教室にいない場合どうするのかというところで、高学年は学校にいて、低学年は授業が終わって児童館や児童クラブにいたといった時間帯に災害が発生した場合について、保護者や学校から、児童生徒が児童館や児童クラブを利用しているかについての問合せがあった場合に我々はどうのように伝えるかということをして昨年検討しました。その中で児童館や児童クラブを利用している利用者の名簿がなかなか統一できてないというところで、災害時には児童生徒の所在についての問合せが多く来ると思いますので、その時の対応を速やかにできるように様式の統一を図りました。

我々としましてはそのような問合せについても、誰がどこにいるかを学校側や保護者に伝えることができる体制を整えて、速やかに対応できるようにしたいと考えております。

会長：ありがとうございます。では、続いて消防本部の水橋委員をお願いします。

水橋委員：地域消防課の水橋と申します。私の課は消防団を担当している課でありまして、引渡訓練や防災会議といったところで、地域の分団長に参加いただいております。

以前にもお話をさせていただいたのですが、消防団は、学校に限らず災害対応を行いますので、災害が大きくなれば大きくなるほど学校を優先した対応が難しくなることが悩ましいところです。

また、学校での取組に参加させていただいている分団長も2年或いは3年で代わってしまいますので、会議等で学校の状況を把握した点については、次の分団長に引き継いでいただくように、消防団の会議で伝えていきたいと思います。以上です。

会長：ありがとうございます。長屋先生と危機管理課の鬼塚委員には最後に総括的にお話を伺いたいと思います。次は教育総務課でよろしいですか。

山岡委員：教育総務課の山岡です。一般の疑問のような形でお話しするようになってしまいますが、避難訓練について、私も学生時代どうだったのか、事前に告知があったのか、それとも抜き打ちだったのかなと考えていました。

いつも授業の時に起こるわけではないので、登下校や休み時間に起こった場合なども想定はされているかとは思いますが、その際の避難ルートなど、登下校時には子供たちは自分で自分の安全を守れるように、意識づけも必要になるのかなと思ったところです。

実際に避難するとなると何かと校庭に避難しますが、必ず校庭に避難するのか、例えば体育館は避難所にもなっていて、体育館でも避難できるのか、素朴な疑問ですがそのようなことを感じました。

また教育総務課としては、災害が発生した場合には情報共有として学校から連絡が来るというのを改めて確認したところですが、内部での情報の共有が速やかにできるのかどうか、こちらは連絡を受ける側になりますが、災害時を想定した教育局としての役割について再度確認して、事件、事故や災害が発生した時にこちらの連絡体制であるとか、どのようにするかというのを把握しておく必要があるのかなと、教育総務課の業務としてはそこを感じました。以上です。

会長：ありがとうございます。次は学び推進課でお願いします。

学び推進課の岡野です。よろしく申し上げます。子供たちの学習を司る課としましては、やはりつくばスタイル科の充実を考えるところです。各学校の取組事例にも紹介されておりますが、各学年ですでに計画の中で防災バッグやマップづくり、中学生は避難所開設と、その学年、その年齢で学習する内容の充実について、さら

に学校の方へも求めながら、一緒になって考えられればと思ったところがひとつです。また、中学生の役割というところをすごく感じていまして、中学生が自分たちにできることとしてどう行動するのかということですね。大人に助けをもらうばかりではなくて、自分たちができる部分とといいますか、そのあたりの意識の浸透についても図っていければということがあります。

つくばスタイル科の中で自分たちの足で調査して、自分たちの地域の実情を知る。それを保護者の皆様や地域の皆様に広げながら、自分たちにどういうことができるのかという意識を高める。

自分たちの地域以外の防災に関しても広く学習することで、将来、様々な場所に住むわけですので、その土地に応じて自分たちはどのようにすればいいのかという幅広い視点もやはり大事かなと思いました。以上です。

会長：ありがとうございます。では特別支援教育推進室、中島委員をお願いします。

中島委員：特別支援教育推進室中島です。特別支援の視点から考えますと、先ほど中野委員からもお話がありましたが、不審者対応などは特別支援のお子さんは急に始めると非常にパニックになることもあって、年度の初めにこのような訓練が年間にあって、こういうことをやりますよというところを、環境の把握とか心理的な安定というところが非常に弱いお子さん方ですので、予め話をして、怖がることはないけれど、訓練をきちんとやることで必要な対応ができるようになるよというのを伝えて、実施できるといいと思いながら聞かせていただきました。

それからもう1点として、先日看護師さんたちとお話をする機会があり、これから幼稚園、学校に医療的ケアのお子さんが入ってくることになりまして、病弱児、虚弱児も考えると、火災、水害、地震等で屋内外に避難するときに非常電源の確保が非常に大切な部分ではないかというお話がありました。

避難所が学校以外のところにできた場合には、電源がないところには避難できないというお子さん方もいらっしゃるというお話もあって、非常に危機感を持ってお話をお伺いしました。危機管理課の鬼塚委員も来てくださっていますけれど、危機管

理課の方で看護師の方々とそういったお話を進めてくださっていると聞いています。避難する期間が長くなれば、お子さんによってはチューブや酸素ボンベといった器材が必要になる方もいらっしゃるので、日常生活用品の備えというものがもう1セット増えるのかなということも感じています。

避難訓練を考えると、医療的ケアが必要なお子さん方が入学してきたらという視点も持つ必要があるのかと思っております。以上です。

会長：ありがとうございます。学務課の下田委員、お願いします。

下田委員：学務課の下田です。私の担当としては学校も入っているんですが、メインとしては幼稚園の部分もありまして、先ほど川瀬園長の方からありましたように各幼稚園では、園児を含めて避難訓練を実施しているということになりますが、我々では昨年度だと思いますが、幼稚園の先生を対象とした避難訓練、さすまたを使った不審者対応というのを実施しようということで、一斉に幼稚園の先生を対象として、警察の方をお願いしてさすまたの使い方の訓練をしたことがありました。これは引き続き新しい先生、異動してくる先生もいますので、継続して実施しなければと思います。また、我々の管轄として秀峰筑波義務教育学校のスクールバスがありますので、地震の時にバスが揺れたというお話がありましたので、登下校でバスを運行している時に何かあった場合のことを考えると、バスには添乗員さんが必ずいて、各学校、もしくは会社に連絡するようになっていますが、電話の不通などでもし連絡がつかなかった場合はどうするかということも出てきますので、そういったことも含めて考えなければならぬ部分があるかと思えます。

また中島委員からもありましたが、幼稚園でも医療的ケアの必要な方がいて、学校でも医療的ケアの必要な方以外に、車椅子の方、それと歩行に支障がある方がいらっしゃると思うので、その方々の誘導について避難訓練をしていればできるかどうか、実際の災害時であればどうかということ、ある程度考えなければならぬと思います。幼稚園の子に関しては先生が普通の園児を避難させるだけでも大変なので、配慮が必要な園児についての避難を考えなければならぬと思います。個人的

に感じたことですが、東日本大震災の時に市の職員で車椅子を利用している方が5階や6階から避難することを考えたときに、大人でも大変なことになるので、子供はもっと大変になるだろうということを感じておりますので、幼稚園等と連携して考えなければならないと思いました。

会長：ありがとうございます。エレベーターも動かなくなりましたからね。それでは健康教育課、柳町委員お願いします。

柳町委員：健康教育課の柳町です。東日本大震災の時のお話がありましたが、東日本大震災の時に、私の子供が小学校の1年生と2年生でした。

地震が起きて本来であれば引取りに行かなければいけないんですが、公務員という仕事柄、有事対応の業務のため、帰宅することが難しい状況でした。

そのような私の状況を、地域のお母さんたちが十分に理解してくれていて、ご家庭のおじいちゃんやおばあちゃん、多くの方が声をかけ合ってくれて、学校に迎えに行ってくれたという事例がありました。先ほど何回か地域の連携というお話があったかと思うんですが、つくづく学校の防災というのは、地域の連携というものが、切っても切れないものなのかなと改めて思った次第でございます。

健康教育課は学校保健と学校給食を担当しているんですが、昨年もお話をしたんですが、AEDの方を各学校の方に増設を進めております。今年度中に小学校で31台、中学校で22台増設する予定です。

もちろん学校の内部にも増設しますが、全ての学校で屋外にも増設をする予定となっております。避難訓練や様々な機会にAEDの研修等も行っていると思うんですが、屋内外にも設置されますので、避難訓練に活用いただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

会長：ありがとうございます。それでは教育施設課の鈴木委員、お願いします。

鈴木委員：教育施設課の鈴木です。

私は最近消防の防火管理者の講習というのを受けまして、火災について改めて考える機会がありましたが、避難訓練でも、地震の時と火災の時の逃げ方は違うと感じ

ております。地震の時は最短距離で逃げる必要があると思いますが、火災の時は火災の発生元から遠ざかるように逃げる必要があるなと感じました。

例えば1階で火災が起きた場合、1階の廊下に煙が充満してくると、どうやって逃げたらいいのかと。階段を下りて直接扉があって外へ逃げられるような学校もありますので、そのような学校は逃げやすいかなと思いますが、一旦廊下へ出てから外部へという避難経路になりますと、煙が充満したり、充満し始めているところで逃げていいのか。別の避難経路を考えて、そのような想定で訓練してもいいのかなと思います。場合によっては北棟、南棟と棟が分かれていて、2階や3階で通じていれば、距離としては長くなるかもしれませんが、火災が起きていない方へ逃げるであるとかそのようなケースもあるのかなと考えたところでした。以上です。

会長：ありがとうございます。文化財課、石橋委員お願いします。

石橋委員：文化財課の石橋です。文化財課として訓練に直接関わるということはありません。有事には教育委員会の一員として役割を分担するということになるかと思っています。

文化財課として防災について関わる部分があるとすれば、これまでの災害の記録であったり、例えば桜川の流域では役に立つかと思いますが、地形の成り立ちや高低の話であったり、山津波の起きやすさなど、地域の学習の際にお伝えすることができるかなと思います。以上です。

ありがとうございます。生涯学習推進課の澤頭委員、お願いします。

澤頭委員：生涯学習推進課澤頭です。生涯学習推進課としましては、特に学校と地域との連携、子供たちを中心とした連携の取組を進めています。

今までのお話にもありましたように、地震、火災、竜巻、不審者、水害のような災害に対応するためには、それぞれ取組方が異なると思いますし、学校と子供たちの間だけで完結するものでもないと思っています。学校と子供と保護者、PTAだけで終わるのかな、そうでもない。やはり地域の力を借りることが大切になってくるのかなと感じております。

中島委員からもありましたように、配慮が必要なお子さんたちもいらっしゃる。その場合、地域には民生委員さんもいますし、有識者の方もいます。何より地元を良く知っている地域の方がいらっしゃいますので、そういった方の手を借りて、幾重にも手を借りながら対策を練るといのはとても有効だと思っております。

これは別件で業務とは関係ありませんが、テレビで見ていたのですが、学校で避難経路をグループで考えている場面で、グループのほとんどの人がAの避難経路を選んだけれども、ある子は、自分は背が小さく段差を超えられないと考えてBの避難経路を選んだという場面がありました。

避難経路といえども、その子に合った経路を見つけてそれを自分で考えさせるというのはすごく大事な取組なのかと感じました。個人的な感想になりましたが、すみません。会長：ありがとうございました。委員の皆様から、心配なことやこのような取組をしてはどうか、このようなことを考えようということ頂きました。

柳下委員からも学校の立場で、何かありますか。

柳下委員：様々な想定をして、想定外を想定内にしようという訓練は、計画的に各学校で取り組んでいます。

計画書を見せていただいて、調査の意味や知りたい情報について学校がわかっている書いているのであれば、これ以上のことを毎月何かしら行っているという記録になるんですが、遠慮している学校は、オーソドックスな避難訓練実施のみの計画になっているなどと思って見ておりました。

例えば地震と火災の経路は違うんじゃないかということその通りでございます。それから不審者についても、余りにもリアルすぎて、1年生が驚いて、明日から学校に行きたくなくなってしまうということが起こらないようにするための手だてを考えて不審者対応をするわけなんですけど、諸々のことを考えて、ありとあらゆる手段を使って、計画して実施しているというのが防災訓練の実態です。

実際に訓練を行いながら私が疑問に思うと申しますか、難しいと思うのは、やはり一人一人の子供は違うので、その子に応じた経路はあるかもしれない。でも学校

全体で避難経路を行うときには、まず最初には基本を抑えるということで、こういう想定だとしたらこうなるよということを、最初の早い段階で行っています。その基本形をそれだけでとどまらずに、自分の危機管理能力や判断力を養うためにも、自分ならどうするというをシミュレーションしてどう動くかという訓練も、ますます必要になってくると思っています。それをどう指導して実行していくかというのは学校内でも先生方で議論が分かれるところです。

それだけ時間をかけなければならないので非常に大変なことになります。学校現場としてはそこが課題ですね。

さらには、学校だけでなく地域の力を借りることがとても大切だとわかっていいますので、避難訓練にいざ地域の方と一緒に訓練に参加して頂くようになった時に、すぐに連絡をして、周知して来てくださる人と来てくださらない方がいても、その学校に心づもりがあれば、地域の方は非常に賛同してくれて、むしろ一生懸命関わろうとしてくださるというのありがたいことです。ですので、学校側からの発信力が必要になっているなと思います。

水害の話も出ましたが、昨今の災害は予測がつきにくいので、ますますその地域の方の協力なしでは子供たちを守り切れません。学校外で起こった時の災害のことも考えると、地域全体で考える必要が出てきているなと思いました。

まだまだたくさんありますが一応この2つをよろしく願います。
ありがとうございます。今、たくさんの懸念事項が出たんですが、これを議事録にして学校に周知して、こういう話が出ましたと、学校でそれぞれ考えて欲しいということで、2回目の時には、このような工夫をしましたという実践したことが報告されるといいなと思っています。

そして今までのお話について、その助言でも結構ですし、改めてこういう視点が足りないんじゃないかという部分があれば、危機管理課の鬼塚委員と長屋先生からお聞きできればと。難しいかもしれませんが、鬼塚委員から願います。

鬼塚委員：危機管理課の鬼塚です。よろしくお願ひします。出前講座などの機会に皆さんにお話することとして、まず2つ考えてくださいとお話します。

国が示している地震の被害想定では、茨城県南部は震度6弱、もしくは強とされています。東日本大震災の時にはつくばは震度6弱でしたが、震度計が置いてある建物が震度6弱なので、軟弱地盤の場所では震度6強であった可能性もあります。そうすると、国が示している地震の想定は東日本大震災の時に経験した揺れであり、この規模の災害が起きる可能性が非常に高いというのがまず1つ。もう1つは、それ以上の予測していないことが起きるかもしれないということです。

災害について考える際の優先順位としては、まずは起こる可能性が高いものについて考えていただいて、その後に想定外のことを考えていただきたいと思います。

では震度6弱の地震が起きた時に、学校の校舎が潰れるのかと考えると、おそらく潰れない設計になっているはずですが、基本的には大丈夫だと。ただどこで損傷しているか分からないので確認は必要です。先ほどお話のあった、例えば雨が降った時に外に出るのかということについて、本当に外に出る必要があるのかと。

それより大切なことを忘れていて、例えば図書室の棚は固定されていますか。掃除用具入れであるとか、学校のロッカーは固定されていますか。想定内の災害の対応として、やるべきことがまだできていないと。

むしろ、想定外のことよりもそちらのほうで怪我をする可能性が高いです。他の学校のケースで見たことがあります、床に「セーフティゾーン」「デンジャーゾーン」とマーキングをして、揺れた時にはここには近づくなということだけをまず教えると。そうすることでまず自分の身を守ることができる。全国的な取組のなかで、そのような取組をしている学校があると聞きました。地震だけが起きた場合には、まずそこから逃げる必要があるかどうかの判断が必要ですね。

火災が起きた場合は、当然どこかに逃げるしかありません。それは通常実施している火災訓練のなかで想定していけばいいと思います。

先ほどお話があった電源の問題で言えば、東日本大震災の時につくばで何があったかというとはやはり停電、そして3日間以上の断水です。

つくばで起きたこと、起きる可能性のあることにどう対応していくのがいいのかと考えて、新しい学校には災害用井戸を掘って作るようにしています。

そしてその井戸水が悪くならないように、トイレの洗浄水として使ってもらうようにしています。古い学校についても、改修する際にはそういうものをお願いできたらと思っています。

医療的ケア児の関係で電源がないと困るという場合にも対応できるように、新しい学校には発電機を備えてもらうようにしていますので、災害に対して少しずつ強くなっていければと思っています。

また我々が考えていることとして、地震の時には学校の体育館を避難所として使う考えはありません。基本、周りの建物に被害があった場合には、公共施設で使えるところとしては校舎を考えています。

何故かという、東日本大震災の際に壊れた公共施設はほとんど学校の体育館だったんです。ガラスが割れたり、屋根の天井材が落ちたりということがありましたので、地震の際に体育館を使うというのは考えていません。

そのため、地震が起きて校庭が使えない場合に安易に体育館で良いと考えてしまうと子供たちが勘違いしてしまうので、そういった避難の仕方をしないほうが良いと考えています。

また岡野先生からあったことで、中学生ができることというお話がありましたが、昨年竹園高校で茨城県の実践事業があり、その相談に乗ったなかで避難所運営という話がありましたが、竹園地区で避難所を開設することはほとんどないでしょうと言いました。あるとすれば帰宅困難者の対応ということになります。

それよりも今の地域課題としては、単身もしくは高齢者へのフォローや、停電や断水が起きた場合の地域のつながりが薄い地域であることになります。

そこで、例えば私が高齢者のお宅に訪問すると謎の男が来たと言われますが、地

域の高校生がお宅は大丈夫ですか、と訪問することで安心感が生まれます。

当然、怪しい人が住んでいる場合もあるので大人も近くに行きますが、戸口には高校生や中学生が訪問すると。そうすると地域の方々も安心して困りごとであるとか水がないといったことを伝えてくれるかなと思います。学校は地域とつながっていますので、そのような訓練もできるのかなと思います。

また、TXの沿線では特に保護者の方が電車で通勤されている場合が多いと思います。そのため、すぐに引き渡せるとは限らない。

例えば「引き渡せない訓練」をしている学校はありますか。お子さんを夜まで、或いは1日預かるというのもあり得ることです。

先ほどの不審者対応で怖がってしまうという話ですが、私の子供は知的障害を持っていて、つくばの支援学校に通っていますが、やっぱり怖がります。

テレビで傷害事件というだけで、障害者が何か事件を起こしたと思っています。

そのように、言葉の部分でも勘違いしたりするんですが、家の中で火災から逃げるのにどうするかということを考えて、子供たち相手に私が水鉄砲を持って追いかけてみました。

要は人物が怖いのではなくて、何かから逃げるのが大切だと気付かせると、必要以上に怖がらなくて済むのかなと。例えば幼稚園の先生が普通に水鉄砲を持って、濡れたくなければ逃げるというふうにすると、それほど恐怖を味わうことなく逃げる体験ができるかなというのは思いました。以上です。

会長：ありがとうございます。では長屋先生。

長屋先生：これまでのお話をお聞きし、いくつかお話をしたいと思います。最初に教育長からは、「学校における防災訓練」のお題で、意見をみなさんにお聞きしたと思いますが、お聞きしているとみなさんからは、訓練のみならず、いろいろな意見が出てきて、ちょっと話が散らかったかな、と思います。

ただ、これは防災あるあるで、全く悪いことだとは思いません。ひとつのお題から意見交換を始めても皆それぞれの立場での問題認識などがたくさんあるわけで、防災

ってそういうものだと思います。

そのような問題認識を共有し合うことは非常に重要なことだと思います。皆さんのたくさんの問題認識を整理して、また訓練に帰着させることが我々にとって重要だとおもいます。すなわち「学校における防災訓練」というのは、さまざまな問題認識がある話題だということを理解いただければと思います。

その上で、具体的にお話をします。まず3.11の話が出たので事実だけを申し上げると、緊急メールシステムに関しては、当時つくば市独自の緊急メールシステムでした。3.11のときはサーバー等の問題で機能しなかったわけですが、現在は、学校関係は、すべて県の教育委員会で管理している仕組みに移行しています。その結果、県下の300校以上の公立小中学校、私立の高校を含めて全部が、一つのシステムで運用をしています。この状況については、シミュレーションしたことがありますが、仮に大きな地震が発生し、県下の全てこのシステムを用いる学校がメールを送ろうとした場合どのぐらい遅延するかというと、半日以上です。

これは通信状況等が悪い場合を想定したケースですが、そうなります。実際にコロナの時にとある学校が休校の連絡をしようとした時に、すごく遅延したということが発生していますので、メールは届かない前提も考えざるをえないということです。これはメールに限った話でなく、鬼塚委員からあったように停電などの状況も考えられます。次に訓練の話を上申しますと、今日の資料を拝見して最初に思ったことですが、悪天候の場合の屋外避難に対して問題がある、と記載されているのですが、それ自体が疑問です。

悪天候だったら、屋外避難をやめようという選択肢が出たとすると、屋外避難は何のためにやっているのか、という話になります。災害は雨の日にも発生します。現在の防災訓練を否定するわけではありませんが、今の防災訓練を疑うことは必要だと思います。

例えば、先ほどのメールシステムもそうですし、疑ってみて、これでいいのだろうかとか考えるのは重要だと思います。訓練はなぜ重要かというと、子供たちの命に

直結してしまうので、現状の訓練の在り方を議論していく必要はあるかと思えます。

最後に、この委員会としていよいよ何をやるのかがポイントだと思います。結論めいたことを先に申し上げますと、まず先ほどの訓練の話では引渡し関係の問題整理ができるのではないかと思います。

例えば、各学校もしくは幼稚園では震度5弱以上だとオートマチックで引渡しとなっている、というお話がありましたが、どのぐらい周知されているかは、少し疑問に思えます。一方で、児童館の話が出たときにはその震度5弱で引き渡しがオートマチックという話は出てこなかったもので、多分それはルールになってないと推察します。

そこは、関係機関で揃っていない状況だと思います。訓練という一つの防災行動の流れで見た時に、考えていく必要があると思います。ある施設ではオートマチックで引渡しを始めているのに、こちらでは始めているなどということがあると混乱するので、やることのひとつとしてコンセンサスを得ることができるのではと思いました。

もうひとつは、冒頭に教育長より、東日本大震災では連絡が取れなかったなどのお話がありましたが、問題点の洗い出しが必要だと思います。我々にはとても大きな、東日本大震災での経験があるので、そこをレビューするのは重要かと思えます。

レビューして、何が問題だとか、例えば先ほどメールが問題だという話題が出ましたし、引渡しが問題だということも分かりました、そこを深くレビューして、その上で何を改善するのかを、対象を決めて進めていく必要があると思います。そういった議論をしていくと。ひとつひとつは小さいかもしれませんが、着実に良くなっていくと思います。今日のみなさんの意見をまとめる事務局は、大変だと思いますが、議論した結果どのような方向性を持つのか、課題対象を決めていく方向で、事務局にはまとめをお願い出来ればと思います。

会長：ありがとうございます。考えるポイントをいろいろといただいたように思えます。普段やるべきことから、例えば図書室の棚は固定されているのかという。

確かにそうですよね。そういうことからもう1回立ち返って考えなくてはいけないと思います。また東日本大震災をレビューして、その時想定していなかったことや課題を潰していくということはすごく大事なことで、ただそれを年が経って忘れてしまっているというところがあって、もう1回それを振り返っていくという機会を作るのが避難訓練だと思うので。

そういった課題が各学校でもう1回検討できるように、今回の議事録を作ってまとめるのは大変だけれども、その点をよろしくお願いします。

ちょうど終了予定の時間となりましたけれども、確認事項や御意見がありましたらお願いしたいと思います。

よろしいですか。では事務局からの連絡をお願いします。

事務局：事務局から申し上げます。

皆様のご協力をいただき、今年度も学校防災を強化推進することができます。

今回、議論の中でいただいた御意見を参考にさせていただき、引き続き様々な取組を行いますので、今後とも御協力をお願いいたします。

次回の学校防災推進委員会につきましては、令和6年2月に開催予定です。

日付が近づきましたら改めてご案内を差し上げますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

会長：今回は皆さんから貴重な御意見をいただきまして本当にありがとうございました。では事務局に戻します。

事務局：ありがとうございました。

それでは以上をもちまして、第1回学校防災推進委員会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

以上

令和5年度
第1回つくば市学校防災推進委員会 次第

日 時 : 令和5年(2023年)6月28日(水)
午後3時30分～
場 所 : 庁舎2階 204会議室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

- (1) 学校防災推進委員会の概要について【資料1・2】
 - (2) 令和5年度(2023年度)学校防災事業計画について【資料3・4】
 - (3) 学校防災手帳の概要について【資料5】
 - (4) 学校防災訓練の在り方について【資料6】
- ※ 参考資料 令和4年度(2022年度)の事業報告

4 その他

5 閉 会

令和5年度（2023年度）つくば市学校防災推進委員会 名簿

	役 職	所属等	氏 名
1	会長	つくば市教育長	森田 充
2	副会長	つくば市教育局長	吉沼 正美
3	副会長	つくば市学校長会長	柳下 英子
4	委 員	つくば市教育局次長	久保田 靖彦
5	委 員	つくば市学校長会 小学校部会長	中野 真粧美
6	委 員	つくば市学校長会 中学校部会長	茂在 哲司
7	委 員	つくば市幼稚園長会長	川瀬 和恵
8	委 員	つくば市P T A連絡協議会長	内野 隆之
9	委 員	つくば市市長公室 危機管理課長	鬼塚 宏一
10	委 員	つくば市市民部 市民協働課長	美野本 玲子
11	委 員	つくば市こども部 こども育成課長	吉田 和敏
12	委 員	つくば市消防本部 地域消防課長	水橋 光一
13	委 員	つくば市教育局 教育総務課長	山岡 めぐみ
14	委 員	つくば市教育局 学務課長	下田 裕久
15	委 員	つくば市教育局 教育施設課長	鈴木 聡
16	委 員	つくば市教育局 健康教育課長	柳町 優子
17	委 員	つくば市教育局 学び推進課長	岡野 知樹
18	委 員	つくば市教育局 特別支援教育推進室長	中島 澄枝
19	委 員	つくば市教育局 生涯学習推進課長	澤頭 由紀子
20	委 員	つくば市教育局 文化財課長	石橋 充
21	有識者	国土技術政策総合研究所 主任研究官	長屋 和宏

地域との連携による学校の防災力強化推進事業の概要

資料 1

- 1 目的 大規模地震等の災害に対する児童生徒の防災対応能力の向上及び学校の防災体制を充実させるため、学校と地域の連携を推進し、防災力の強化を図る。

2 組織と事業内容

組織	学校防災推進委員会	学校防災連絡会議
目的	学校防災推進委員会を設置し、組織的に学校及び地域の連携を図り、防災力強化を推進する。防災推進委員会が中心となり、市町村内の教職員を対象に防災に関する研修会を実施し、教員の資質の向上及び実践力の育成を図る。	学校を単位として、地域と連携した避難訓練や外部講師を活用した防災教室等を実施することで、児童生徒や地域住民の能力や実践的な態度の育成を図る。
構成員	教育委員会、防災主管課、市民活動主管課、学校関係者、消防等	教職員、地域の自主防災組織関係者、防災ボランティア団体、PTA等
事業内容 (例)	<ul style="list-style-type: none"> 学校防災推進委員会の開催 学校防災研修会の開催 学校防災手帳の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練 地域・防災関係者等と連携した避難訓練（初期対応、消火、引き渡し、避難所開所） 防災教室 外部講師による防災に関する知識を深めるための講話等 体験活動 避難所体験、防災マップづくり等

(設置)

第1条 大規模地震等の災害に対する児童等の防災対応能力の向上及び学校の防災体制の充実を適切かつ効果的に推進するため「つくば市学校防災推進委員会」(以下「推進委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 推進委員会は、次の各号に掲げる事項を協議する。

(1) 学校防災推進のために必要な次に掲げる施策等の連絡・調整に関すること。

ア 学校の防災教育の充実

イ 地域と連携した防災教育の展開

ウ 学校の防災体制の整備・充実

エ 避難所運営等に係る学校、地域と防災担当部局との連携強化

(2) その他会長が必要と認める事項に関すること。

(組織及び運営)

第3条 推進委員会は、教育長を会長、教育局長及びつくば市学校長会長を副会長とし、別表1に掲げる職にある者を委員として構成する。

2 会長は、必要に応じ推進委員会を招集し、会議の議長となる。

3 会長に事故あるとき又は欠けたときは、副会長がその職務を代理する。

4 会長は、必要があると認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(ワーキングチーム)

第4条 推進委員会の所掌事項に関する事項について調査検討をさせるため、推進委員会のもとに「つくば市学校防災ワーキングチーム」(以下「ワーキングチーム」という。)を置くことができる。

2 ワーキングチームは、次長(教育総務課、学び推進課担当)をリーダー、教育

総務課長及び学び推進課長をサブリーダーとし、別表2に掲げる職にある者をメンバーとして構成する。

3 リーダーは、必要に応じワーキングチームを招集し、会議の議長となる。

4 リーダーに事故あるとき又は欠けたときは、サブリーダーがその職務を代理する。

5 リーダーは、必要があると認めたときは、メンバー以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

6 リーダーは、ワーキングチームにおける調査検討が終了したとき又は会長から求められたときは、調査検討の結果又は必要な事項を会長に報告しなければならない。

(庶務)

第5条 推進委員会及びワーキングチームの庶務は、教育総務課及び学び推進課において処理する。

(委任)

第6条 この要項に定めるもののほか、推進委員会の運営に関して必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要項は、平成24年7月17日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年5月12日から施行する。

附 則

この要項は、平成28年6月13日から施行する。

附 則

この要項は、平成29年5月22日から施行する。

附 則

この要項は、平成 30 年 5 月 14 日から施行する。

附 則

この要項は、令和元年 6 月 6 日から施行する。

附 則

この要項は、令和 4 年 6 月 3 日から施行する。

(別表 1)

つくば市学校防災推進委員会

会長	教育長
副会長	教育局長、つくば市学校長会長
委員	<ul style="list-style-type: none">・教育局教育総務課担当次長、教育総務課長、学び推進課長、学務課長、教育施設課長、健康教育課長、特別支援教育推進室長、生涯学習推進課長、文化財課長・つくば市学校長会小学校部会長、中学校部会長・つくば市幼稚園長会長・つくば市 P T A 連絡協議会代表者・市長公室危機管理課長・市民部市民活動課長・消防本部地域消防課長・こども部こども育成課長

(別表2)

つくば市学校防災ワーキングチーム

リーダー	教育局次長（教育総務課、学び推進課担当）
サブ リーダー	教育総務課長、学び推進課長
メンバー	<ul style="list-style-type: none">・教育局 企画監、教育総務課担当、学び推進課担当、総合教育研究所長、学務課担当、教育施設課担当、健康教育課担当、 特別支援教育推進室担当、生涯学習推進課担当、文化財課担当・つくば市立小学校教頭、中学校教頭・市長公室危機管理課担当・つくば市社会福祉協議会事務局担当

○令和 5 年度の学校防災事業計画（推進委員会）

① 第 1 回学校防災推進委員会（6/28）

内 容：令和 4 年度（2022年度）の学校防災事業について
令和 5 年度の（2023年度）の学校防災事業計画について

② 第 2 回学校防災推進委員会（令和 6 年 2 月開催予定）

内 容：令和 5 年度（2023年度）の学校防災事業について
その他

③ 学校防災研修会（令和 5 年度中に開催予定）

教職員・地域の方々を対象とした研修会を予定

④ 学校防災手帳作成

秀峰筑波義務教育学校、二の宮小学校、高崎中学校（荃崎第一小学校）で作成

令和5年度(2023年度)の事業計画(各学校の取組)

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
①大穂学園	大穂学園	令和5年5月	学園合同引き渡し訓練	保護者、児童生徒、教職員、各校防災連絡会委員、PTA役員	学年内5校同日に大地震が起こったという想定で引き渡し訓練を実施し、学園の防災意識を高める。
		令和5年5月	学校防災連絡会議(各小学校で実施)	各校防災連絡会委員、区長・自治会長、消防団長、コミュニティスクール推進委員、警察官(駐在所)、PTA役員	学園合同引き渡し訓練の様子の参観、防災倉庫や避難場所の確認をもとに災害時の避難所設営に関する課題を情報交換する。
		令和5年8月	学園防災連絡会議	くすのき会役員、教職員、各校防災連絡会委員、区長・自治会長、消防団長、学校評議員、警察官(駐在所)、PTA役員	講師の指導を受けて、学園としての防災力強化の在り方について認識を深める。各校実施の防災連絡会議での課題について、地域連携の避難訓練や避難所解説訓練について情報交換し、解決方法を探りながら防災について再確認する。
	大穂中学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(大地震発生想定)
		令和5年4月	教職員研修	教職員	AED、アレルギー教職員研修
		令和5年9月	授業・訓練時以外での防災に係る取組	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年10月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(大地震から火災発生)
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
	大曽根小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	全校生徒	
		令和5年5月	引渡し訓練	教職員・全校生徒・地域の方々	
		令和5年5月	学校防災会議	教職員・地域の方々	
		令和5年6月	教職員研修（AED）	教職員	
		令和5年8月	学区防災会議	教職員・地域の方々	
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	全校生徒	
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和6年2月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
①大穂学園	前野小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	
		令和5年6月	教職員研修	教職員	シミュレーション研修
		令和5年8月	教職員研修	教職員	AED研修
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年2月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	
	要小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第1回 避難訓練（火災・地震。避難経路確認。）
		令和5年7月	授業・訓練時以外での防災に係る取組	全校生徒	第2回 避難訓練（竜巻・雷・大雨）防災啓発ビデオ視聴「急な大雨・雷・大雨から、身を守ろう」
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	防災倉庫の中身を確認。防災バッグを作成する。
		令和5年8月	授業・訓練時以外での防災に係る取組	教職員	消防署から講師を招聘した、心肺蘇生法についての研修

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
①大穂学園	要小学校	令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第3回 シェイクアウト訓練
		令和5年12月	その他の研修、講話等	教職員・全校生徒・地域の方々	防災についての講話を聴講
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	自分の住む地域の防災マップを作成する。

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
①大穂学園	吉沼小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	避難経路確認
		令和5年8月	教職員研修	教職員	防災、AED研修、消防署に依頼予定
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	避難訓練（火災）
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	保護者参加

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
②豊里学園	豊里学園	令和5年7月	学園合同引き渡し訓練 同日に大地震が起こったという想定で引き渡し訓練を実施し、学園の防災意識を高める。	保護者 教職員	特になし
		令和5年10月	豊里学園防災連絡会議 地域防災について講話 情報交換を行い、共通理解と課題について話し合う。	CS推進委員 教職員	未定
	豊里中学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第1回（避難経路の確認）
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第2回（地震対応）
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第3回（不審者対応）
	上郷小学校	令和5年4月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	引渡し訓練
		令和5年8月	PTA・学校サポーター組織の学校防災に係る取組	6年生	災害時の食料確保の内容を扱うキャンプ
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	地震想定
		令和5年11月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災想定
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	不審者想定
	今鹿島小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	
		令和5年6月	その他の学校防災に係る取組	その他	避難訓練+引渡し訓練
		令和5年11月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
②豊里学園	沼崎小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第1回
		令和5年6月	防災教室	1年生	講師：国土交通省国土技術政策総合研究所 道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災マップ作成	6年生	講師：国土交通省国土技術政策総合研究所 道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	4年生	講師：国土交通省国土技術政策総合研究所 道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第2回
		令和5年10月	その他の研修、講話等	教職員・地域の方々	講師：国土交通省国土技術政策総合研究所 道路地震防災研究室 長屋和宏様 市職員 (予定)

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
③輝翔学園	輝翔学園	令和5年9月	地域防災連絡会議 教職員、区長、PTA関係者が会し、市の担当者から危機管理の現状や避難所運営についての説明を受け、有事の対応について協議する。	教職員代表者 学園内の区長 PTA関係者	つくば市危機管理課職員
	谷田部中学校	令和5年6月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	
		令和6年2月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	
	谷田部小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	避難場所、避難経路の確認
		令和5年6月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	教職員・全校生徒・地域の方々	引渡し訓練
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練、地震対応
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年12月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災対応
		令和6年2月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	不審者対応

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
③輝翔学園	谷田部南小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難場所、避難経路の確認
		令和5年6月	避難訓練(引渡し訓練を含む)	教職員・全校生徒・保護者	非常時の引渡し訓練
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練、地震対応
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	防災バックの作成
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	防災マップの作成
		令和5年11月	避難訓練(引渡し訓練を含まない) 幼稚園との合同	小・幼教職員・全校児童・全幼稚園児	火災対応(南消防署との連携)
		令和6年2月	避難訓練(引渡し訓練を含まない) 幼稚園との合同	小・幼教職員・全校児童・全幼稚園児	不審者対応(つくば中央警察署生活安全課との連携)
	柳橋小学校	令和5年5月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震に対する避難訓練
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者に対する避難訓練
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災に対する避難訓練
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年2月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
④高山学園	高山学園	令和5年6月	学園引き渡し訓練 学園内の小中学校で連携して、非常災害時の引き渡し訓練を行なう	7年生生徒・保護者 学園内小学校	なし
	高山中学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	全校生徒	避難経路の確認、避難場所の確認
		令和5年5月	教職員研修	教職員	緊急時の対応研修
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
	真瀬小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回(火災)
		令和5年6月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第3回(竜巻)
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	4年生	
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災マップ作成	6年生	
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第4回(不審者)
		令和6年3月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
④高山学園	島名小学校	令和5年5月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	全校児童	第1回
		令和5年6月	その他の学校防災に係る取組	異学年交流	引渡し訓練
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	全校児童	第2回
		令和5年12月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3・4年生	
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校児童	第3回
		令和6年2月	その他の研修、講話等	教職員	講師：国土交通省国土技術政策総合研究所 道路地震防災研究室 長屋和宏様 招聘予定
	香取台小学校	令和5年5月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	
		令和5年6月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年1月	その他の研修、講話等	教職員・地域の方々	地域防災連絡会議 講師 未定
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	防犯に関する取組

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑤光輝学園	光輝学園	令和5年9月	学園合同引渡し訓練 光輝学園と一部の幼稚園が連携して引渡し訓練を行う。 学園内の安全確保と地域の防災意識の向上及び保護者への引き渡し法を確認する。	手代木中学校 手代木南小学校 松代小学校 葛城小学校 手代木南幼稚園	
		令和5年11月	光輝学園学校防災連絡会議 防災倉庫点検・設営 情報交換	学校(三者・保健主事) 区長 民生委員 消防団	検討中
	手代木中学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回 地震による避難訓練
		令和5年11月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第2回 火災による避難訓練
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第3回 不審者による避難訓練
	手代木南小学校	令和5年5月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回
		令和5年5月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒・地域の方々	第2回
		令和5年11月	教職員研修	教職員	内容検討中
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第3回
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和6年2月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年2月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第4回

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑤光輝学園	松代小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難経路確認
		令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒	引渡し避難訓練
		令和5年6月	教職員研修	教職員	AEDの利用に関する研修
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	講師：警察官
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	防災バッグについての学習
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年2月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒・地域の方々	竜巻、無告知避難訓練、父母教作成の災害対策動画視聴
	葛城小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回地震避難訓練(各学年経路確認を含む)
		令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	光輝学園引渡し訓練(地震避難訓練含む)
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年11月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第2回火災・竜巻避難訓練

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑤光輝学園	葛城小学校	令和5年11月1日	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	光輝学園学校防災連絡会議
		令和6年1月1日	防災教室	地域の方々	4年生対象、葛城版コミュニティ・スクール、保護者
		令和6年1月1日	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第3回不審者避難訓練

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑥洞峰学園	洞峰学園	令和5年9月	地域防災連絡会議	教職員代表者 学園内の区長 PTA関係者	教職員、区長、PTA関係者が会し、市の担当者から危機管理の現状や避難所運営についての説明を受け、有事の対応について協議する。
	谷田部東中学校	令和5年10月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒・地域の方々	第4回（火災を想定） 消防署の方
	小野川小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	避難経路確認
		令和5年6月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒・地域の方々	地震
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年7月	防災教室	4年生	原子力災害に係る研修
		令和5年7月	教職員研修	教職員	原子力災害に係る研修
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年9月	防災教室	異学年交流	
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	竜巻
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑥洞峰学園	二の宮小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回火災想定
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	作成後、家庭で保管・使用
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	夏休み中に各自で調査し、夏休み明けにまとめる。
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第3回(不審者対策) ※第2回(6月)は学園での引渡し訓練
	東小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回 地震
		令和5年6月	避難訓練	教職員・全校生徒・地域の方々	洞峰学園引渡し訓練
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第2回 火災
		令和5年11月	地域との連携による東小学区防災会議	教職員・地域の方々	
	令和5年7月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第3回 不審者侵入	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑦桜学園	桜学園	令和5年5月	地域防災連絡会議	教職員・地域の方々	
		令和5年5月	学園引き渡し訓練	教職員・全校生徒・地域の方々	
		令和5年8月	地域防災連絡会議	教職員・地域の方々	
	桜中学校	令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	避難訓練(引渡し訓練) 第1回
		令和5年6月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	9年生	避難所設営
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第2回
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第3回
	栗原小学校	令和5年4月	教職員研修	教職員	防災計画・対応マニュアルの確認
		令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	学園引渡し訓練
		令和5年6月	その他の学校防災に係る取組	教職員	AED活用研修
		令和5年6月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応避難訓練
		令和5年11月	防災教室	5年生	つくばスタイル科

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑦桜学園	九重小学校	令和5年6月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回 火災・地震対応
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	異学年交流	
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第2回 竜巻対応
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第3回 不審者対応
	栄小学校	令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	学園引渡し訓練
		令和5年5月	その他の研修、講話等	教職員・地域の方々	地域防災連絡会議
		令和5年6月	教職員研修	教職員	学園救命救急講習
		令和5年8月	その他の研修、講話等	教職員・地域の方々	地域防災連絡会議
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	全校生徒	避難訓練(シェイクアウト)
		令和5年10月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	全校生徒	避難訓練(竜巻)
		令和5年11月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	3年生	防災交流学习
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	全校生徒	避難訓練(不審者)

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑧竹園学園	竹園学園	令和5年6月	竹園学園地震引渡し訓練	学園児童生徒、教職員、保護者	地震を想定した学園合同の引渡し訓練の練習
		令和5年10月	竹園学園学校防災連絡会議 本年度の竹園学園防災について協議 ※CS推進委員会と兼ねる	竹園学園CS推進委員	
	竹園東中学校	令和5年8月	教職員研修	教職員	救急救命講習
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年10月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	竜巻を想定した訓練
		令和6年2月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	不審者を想定した訓練
	竹園西小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年11月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑧竹園学園	竹園東小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第1回（記入例）
		令和5年6月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	竹園学園引渡し訓練
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑨桜並木学園	桜並木学園	令和5年5月	桜並木学園合同引き渡し訓練	学園内児童生徒並びに保護者	地震発生に伴う避難訓練。同時刻に保護者への引き渡しを行う。
		令和6年1月	桜並木学園防災連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> ・学園内教職員代表者(校長、教頭、教務主任等) ・学園内各区会の区長 ・PTA役員 	災害発生時の学校の対応についての知見を深める。また、各学校での対応について意見交換する。 防災科学技術研究所 池田真幸氏
	並木中学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(不審者侵入・避難経路確認)
		令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	引渡し避難訓練(地震)
		令和5年8月	教職員研修	教職員	救急救命講習
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和6年1月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	8年生	避難所で私たちにできることは!
		令和6年2月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(火災・竜巻)

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑨桜並木学園	並木小学校	令和5年4月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒	避難経路の確認
		令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	引渡し避難訓練
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回
		令和5年11月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第2回
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	4年生	
		令和5年12月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第3回
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第4回
⑨桜並木学園	桜南小学校	令和5年5月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年8月	教職員研修	教職員	
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	6年生	
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和6年2月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	4年生	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考	
⑩吾妻学園	吾妻学園	令和5年5月	小中学校避難訓練、学園引渡訓練 地震・火災を想定した避難訓練を実施。その後、保護者への引渡訓練を小中合同で実施。	児童、生徒、教職員、保護者		
		令和5年9月	防災キャンプ 学校を避難所と想定してキャンプを行い、避難所生活の体験と防災学習を行う。(おやじの会主催、希望者参加)	吾妻学園小中学生、保護者、地域有識者	吾妻学園 おやじの会	
		令和5年11月	吾妻学園学校防災連絡会議 本年度の吾妻学園防災について協議 ※CS推進委員会と兼ねる	吾妻学園CS推進委員計25名		
	吾妻中学校	令和5年5月	つくばスタイル科 講話等の聴講	8年生		学校避難所開設シミュレーション(講師：国土交通省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様)
		令和5年8月	教職員研修	教職員		不審者対応訓練
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒		地震想定訓練(シェイクアウト訓練)
		令和5年11月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒		火災想定訓練
	吾妻小学校	令和5年7月	防災教室	1年生		
		令和5年9月	防災教室	地域の方々		11月予定のコミュニティスクールで、9月開催の防災教室実施の振り返りを行い、ご意見をいただく。
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒		

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑪ 茎崎学園	茎崎学園	令和5年5月	竜巻に対応した小中合同避難訓練 竜巻発生と、それに伴う安全な場所への避難を想定し、学園合同で避難訓練及び引き渡し訓練を行う。	児童・生徒 教職員 保護者	
		令和5年11月	茎崎学園学校防災連絡会議 講師を招聘し、防災に関する講話や情報交換を行い地域の防災について共通理解を図る。	教職員 保護者 各区長 民生委員 等	防災科学技術研究所 職員
		令和6年2月	茎崎学園学校防災連絡会議（CS推進委員会と兼ねる） 令和6年度の茎崎学園防災について協議する。	茎崎学園CS推進委員	
	茎崎中学校	令和5年5月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第1回（火災）
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第2回（地震）
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第3回（不審者）
	茎崎第二小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	地震
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	教職員・全校生徒	不審者

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑪ 基崎学園	基崎第三小学校	令和5年4月	教職員研修	教職員	避難経路の確認等
		令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	避難経路の確認
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年12月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	土砂災害に関する避難訓練
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑫高崎学園	高崎学園	令和5年7月	高崎学園防災連絡会議	各学校防災会議委員、PTA代表、区長及び民生委員の代表、地域の防災担当者、茎崎交番、消防署員等	防災に関する情報交換や高崎地区家庭用掲示物に関する意見交換・防災倉庫点検等
		令和5年9月	シェイクアウト訓練 防災マップづくり 防災マップづくりを通して、防災に対する意識の高揚を図る。	高崎中・茎崎一小 教職員・児童 茎崎第一小 第5学年	防災マップづくりを通して、防災に対する意識の高揚を図る。
	高崎中学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒・地域の方々	火災を想定し、避難経路の確認。茎崎消防署から講師を招き、初期消火訓練の実施。
		令和5年5月	教職員研修	教職員	危機管理マニュアルについて
		令和5年6月	つくばスタイル科（その他の授業・取組）	9年生	「避難所で私たちにできることは！」
		令和5年7月	つくばスタイル科（その他の授業・取組）	9年生	「避難所で私たちにできることは！」
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	竜巻を想定し、教室でバリゲードをつくり避難方法の確認。
		令和5年11月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	授業中に実施時間を告げずにシェイクアウト訓練を実施。地震の際の身の守り方を確認。
		令和5年12月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒・地域の方々	不審者を想定し、避難の方法の確認。つくば警察署から講師を招き、緊急通報や不審者対応について職員の動きを確認。
	茎崎第一小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	地震想定避難訓練を実施。避難場所の確認（校庭）
		令和5年4月	教職員研修	教職員	学校の防犯状態の確認（防犯カメラの位置、敷地内に進入できる場所の確認等）危機管理マニュアルの共通理解
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年10月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災想定避難訓練を実施。また茎崎消防署の協力を得て、消火器の使い方および消火訓練を実施

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑫高崎学園	荻崎第一小学校	令和5年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者が敷地内に侵入した想定で避難訓練を行う。警察署から講師を招き、防犯教室を行う
⑬研究学園	研究学園中学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震・火災
		令和5年5月	引渡し訓練	教職員・生徒・保護者等	様々な災害を想定した引渡し
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年5月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	8年生	避難所で私たちにできることは
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応
	研究学園小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震・火災
		令和5年5月	引渡し訓練	教職員・生徒・保護者等	様々な災害を想定した引渡し
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年11月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	5年生	防災マップ
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑭春日学園義務教育学校	春日学園義務教育学校	令和5年5月	避難訓練及び引き渡し訓練 マグニチュード7.4の地震を想定した避難訓練	全児童生徒 教職員 保護者	
		令和5年9月	避難訓練 シェイクアウト訓練に合わせた避難訓練	全児童生徒 教職員	
		令和5年12月	つくばスタイル科 防災バック作成	3年生	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋 和宏 氏
		令和5年12月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋 和宏 氏
		令和6年1月	避難訓練 不審者の侵入を想定した避難訓練	全児童生徒 教職員	
⑮みどりの学園義務教育学校	みどりの学園義務教育学校	令和5年5月	避難訓練及び引き渡し訓練 マグニチュード7.4の地震を想定した避難訓練	対象学年児童生徒 教職員	
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	防災科学技術研究所 職員
		令和5年9月	避難訓練 シェイクアウト訓練に合わせた避難訓練	対象学年児童生徒 教職員	防災科学技術研究所 職員
		令和5年10月	避難訓練 不審者の侵入を想定した避難訓練	対象学年児童生徒 教職員	
		令和6年1月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	5年生	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑩秀峰筑波義務教育学校	秀峰筑波義務教育学校	令和5年4月	避難訓練 ・火災を想定した訓練	・学校教職員 ・児童生徒	なし
		令和5年7月	引き渡し訓練 ・保護者引き渡し訓練 ・防災に関する学習 ・地区児童生徒会	・学校教職員 ・児童生徒、保護者 ・PTA(地区委員) ・学校ボランティア	・筑波北消防署 ・北警察センター職員
		令和5年9月	シェイクアウト訓練	・1～6学年児童 ・学校教職員	なし
		令和5年12月	避難訓練(不審者)	・学校教職員 ・児童生徒、保護者	・北警察センター職員予定
⑪学園の森義務教育学校	学園の森義務教育学校	令和5年4月	第1回避難訓練 地震後火災発生を想定した避難訓練	学園児童生徒・教職員	なし
		令和5年5月	第2回避難訓練 引き渡し訓練(1～6年)	学園児童・教職員 保護者・児童クラブ	なし
		令和5年12月	第3回避難訓練 不審者を想定した避難訓練	学園児童生徒・教職員	つくば中央警察署

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考

つくば市学校防災手帳作成の概要について

1 目的

携帯できる防災手帳を児童・生徒に提供し、日常生活や授業に活用してもらうことで、児童・生徒及び保護者の自助・共助の意識の向上に資する。

2 事業概要

ハザードマップ等の行政機関が発行している情報と、つくばスタイル科の防災単元での児童の学習成果を組み合わせ、携帯できる防災手帳を作成するもの。

今年度の作成校は秀峰筑波義務教育学校、二の宮小学校、高崎中学校（荃崎第一小学校）を予定。

・参考：これまでの作成校

平成 30 年度：大曾根小学校、葛城小学校、春日学園義務教育学校

令和元年度：荃崎学園（第二小・第三小）、栄小学校、竹園東小学校

令和 2 年度：上郷小学校、東小学校、竹園西小学校（竹園学園版として再編集）

令和 3 年度：谷田部小学校、沼崎小学校、桜並木学園（並木小学校、桜南小学校）

令和 4 年度：栗原小学校、柳橋小学校、前野小学校、学園の森義務教育学校

3 学校に依頼する事項

- (1) データ収集に係る連絡調整
- (2) 作成・配布するに当たり、授業時間の使用

4 その他

- (1) 国土交通省国土政策総合研究所の協力の下、作成。
- (2) 表面は、吾妻学園防災手帳を基に作成（編集協力：吾妻学園おやじの会）。
- (3) 裏面の情報は、つくば市総合防災ブック等を参考に作成。
- (4) 110 番の家は、各学校へ照会をかけ、PTA 等作成のデータを活用。
- (5) つくばスタイル科における防災の単元での学習成果を基に作成。
- (6) AED は、「茨城県 AED 設置施設登録制度」に登録してある施設を掲載。

学校における防災訓練の概要について

1 種類

つくば市では主に地震、火災、不審者に対応した訓練を行っているほか、学園や地域と連携した引渡し訓練を行っている。

2 内容の一例（地震の場合）

地震発生の放送が入り、揺れが収まるまで机の下に潜り待機する。
揺れが収まったあと、校庭等に避難し、点呼のうえ安全確認を行う。
引渡し訓練の場合は引き続き待機し、保護者への引渡しに移行する。

3 防災訓練の在り方を検討する際のポイント

- ・地震発生時、放送は使えるのか？
- ・校庭まで避難するとして、安全に移動できるのか？
- ・悪天候の場合はどうするか？
- ・児童生徒が教室にいない場合はどうするか？

学園名	学校名	日程	内容	参加者	講師等
①大穂学園	大穂中学校 大曾根小学校 前野小学校 要小学校 吉沼小学校	令和4年5月	取組名：学園合同引渡訓練 取組の説明：学年内5校同日に大地震が起こったという想定で引渡訓練を実施し、学園の防災意識を高める。	保護者、児童生徒、教職員、各校防災連絡会委員、PTA役員	なし
		令和4年5月	取組名：学校防災連絡会議 取組の説明：学園合同引渡訓練の様子の参観、防災倉庫や避難場所の確認をもとに災害時の避難所設営に関する課題を情報交換する。	各校防災連絡会委員、区長・自治会長、消防団長、学校評議員、警察官（駐在所）、PTA役員	なし
②豊里学園	豊里中学校 沼崎小学校 今鹿島小学校 上郷小学校	令和4年5月	取組名：引渡訓練（上郷小） 取組の説明：大規模災害（地震）を想定した引渡訓練を実施する。	児童・職員・保護者	なし
		令和4年6月	取組名：引渡訓練（今鹿島小） 取組の説明：大規模災害（地震）を想定した引渡訓練を実施する。	児童・職員・保護者	なし
		令和4年11月	取組名：防災マップ作り（沼崎小） 取組の説明：防災マップ等を段階的に作成する	児童・職員	なし
		令和4年11月	取組名：学校防災連絡会議（豊里中） 取組の説明：8年生つくばスタイル科「避難所で私たちにできることは」を考える	生徒・職員	なし
		令和5年2月	取組名：豊里学園学校防災連絡会議 取組の説明：今年度の防災事業に関する振り返りと情報交換	豊里学園推進委員	なし
③輝翔学園	谷田部中学校 谷田部小学校 谷田部南小学校 柳橋小学校	令和4年11月	取組名：地域防災連絡会議 取組の説明：学園の教職員代表者、区長、PTA関係者が柳橋小学校に集まり、市の担当者から危機管理の現状についての説明を受け、災害時の役割分担等を協議したほか、防災倉庫の備蓄品等の確認を行った。	学園の教職員代表者、区長、PTA関係者、地域防災関係者	つくば市危機管理課 係長 櫻井 亮輔 主査 汐見 優

学園名	学校名	日程	内容	参加者	講師等
④高山学園	高山中学校 真瀬小学校 島名小学校	令和4年4月	取組名：避難訓練 取組の説明：非常災害時の安全な緊急避難の訓練。学校での実践を保護者、地域にも発信し、防災意識の高揚を図る。	高山中学校、真瀬小学校、島名小学校	なし
⑤光輝学園	手代木中学校 葛城小学校 手代木南小学校 松代小学校	令和4年5月	取組名：学園合同引渡訓練 取組の説明：光輝学園と手代木南幼稚園が連携して引渡し訓練を行うことで、学園の児童生徒・園児の安全確保と地域の防災意識の向上及び保護者への引渡し方法を確認する場とする。	手代木中学校、葛城小学校、手代木南小学校、松代小学校、手代木南幼稚園	なし
		令和4年7月	取組名：第1回光輝学園学校防災連絡会議 取組の説明：オンラインで開催し、防災倉庫を動画で紹介したり、防災に係る情報交換を行った。	学校関係者・地域関係者・消防団等	なし
		令和4年11月	取組名：第2回光輝学園学校防災連絡会議 取組の説明：オンライン開催、講話「突然の災害に強い学校・地域を作る」	学校関係者・地域関係者・消防団等	防災科学技術研究所 池田 真幸 様
⑥洞峰学園	谷田部東中学校 小野川小学校 二の宮小学校 東小学校	令和4年6月 (荒天のため未実施)	取組名：洞峰学園合同引渡訓練 取組の説明：学園の小中学校で連携を図りながら、地震を想定した引渡訓練を行う。	教職員・学園全児童生徒・保護者	なし

学園名	学校名	日程	内容	参加者	講師等
⑦桜学園	桜中学校 栄小学校 九重小学校 栗原小学校	令和4年5月	取組名：桜学園合同防災訓練及び児童生徒引渡訓練 取組の説明：地震を想定した学園合同引渡訓練	児童生徒・保護者・教職員	なし
		令和4年5月	取組名：第1回桜学園学校防災連絡会議 取組の説明：規約の確認、活動計画の確認	教職員・PTA関係者	なし
		令和4年8月	第2回桜学園防災会議 取組の説明：防災に係る講話		立教大学 教授 長坂 俊成 様
⑧竹園学園	竹園東中学校 竹園東小学校 竹園西小学校	令和4年5月	取組名：竹園学園合同引渡訓練 取組の説明：学園同時開催。地震を想定して校庭に避難。その後保護者等へ生徒を引渡す。兄弟姉妹がいる家庭は、小学校へ引き取りに行く。	学園児童生徒 教職員、保護者	なし
⑨桜並木学園	並木中学校 並木小学校 桜南小学校	令和5年1月	取組名：桜並木学園地区 学校地域防災連絡会 取組の説明：「地域の防災対策について考える」	桜並木学園教職員、PTA 桜南幼稚園、桜南・並木児童館 桜並木学園地区区長及び民生委員	国土技術政策総合研究所 長屋和宏 様
⑩吾妻学園	吾妻中学校 吾妻小学校	令和4年5月	取組名：小中学校避難訓練，学園引渡訓練 取組の説明：地震・火災を想定した避難訓練を実施。その後，保護者への引渡訓練を小中合同で実施。	児童、生徒、教職員、保護者	なし
		令和4年9月	取組名：防災デイキャンプ 取組の説明：学校を避難所と想定してキャンプを行い，避難所生活の体験と防災学習を行う。（おやじの会主催，希望者参加）	吾妻学園小中学生、保護者、地域有識者	吾妻学園 おやじの会

学園名	学校名	日程	内容	参加者	講師等
⑪ 荃崎学園	荃崎中学校 荃崎第二小学校 荃崎第三小学校	令和4年6月	取組名：地震と火災に対応した小中合同避難訓練 取組の説明：震度7の地震発生と、それに伴う建物倒壊や火災を想定し、学園合同で避難訓練及び引渡訓練を行った。	児童・生徒 教職員 保護者	なし
		令和4年9月	取組名：荃崎学園学校防災連絡会議 取組の説明：講師を招聘し、防災に関する講話や情報交換を行い地域の防災について共通理解を図った。	教職員 保護者 各区長 学校評議員 民生委員 等	防災科学技術研究所 李 泰榮 様 市長公室危機管理課 課長 鬼塚 宏一
⑫ 高崎学園	高崎中学校 荃崎第一小学校	令和4年6月	取組名：高崎学園合同引渡訓練 取組の説明：大規模災害(地震)を想定した学園内の幼小中合同の引渡訓練	幼児、児童、生徒 教職員、保護者	なし
		令和5年2月	取組名：高崎学園防災連絡会議 取組の説明：今年度の避難訓練の検証と、防災に関する情報交換や高崎地区家庭用掲示物に関する意見交換・防災倉庫点検	各学校防災会議委員、PTA代表、区長及び民生委員の代表、地域の防災担当者、荃崎交番、消防署員等	なし

学園名	学校名	日程	内容	参加者	講師等
⑬秀峰筑波義務教育学校	秀峰筑波義務教育学校	令和4年4月	教職員研修	教職員	アナフィラキシーショック及びエビペン注射に関する研修
		令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震
		令和4年7月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒・地域の方々	竜巻 第1学年児童のみ引渡し訓練を実施
		令和4年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	

学園名	学校名	日程	内容	参加者	講師等
⑬秀峰筑波義務教育学校	秀峰筑波義務教育学校	令和4年7月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和4年7月	つくばスタイル科 防災マップ作成	6年生	
		令和4年8月	教職員研修	教職員	心肺蘇生に関する研修
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年9月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	8年生	保健体育 自然災害による危険、自然災害による傷害の防止
		令和4年9月	つくばスタイル科 講話等の聴講	6年生	防災マップ作りのためのゲスト ティーチャー 国交省国土技術政策総合研究所 道路地震防災研究室 長屋和宏様

学園名	学校名	日程	内容	参加者	講師等
⑬秀峰筑波義務教育学校	秀峰筑波義務教育学校	令和4年11月	教職員研修	教職員	「防犯教室指導者講習」伝達研修
		令和4年12月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者
		令和4年12月	PTA・学校サポーター組織の学校防災に係る取組	教職員・地域の方々	地震災害と学校防災(オンライン研修)
		令和4年12月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	5年生	水害に関するマイタイムライン講習(県防災危機管理課)

学園名	学校名	日程	内容	参加者	講師等
⑭春日学園義務教育学校	春日学園義務教育学校	令和4年5月	取組名：引渡訓練 取組の説明：大地震が発生したことを想定し、避難方法の確認と保護者への引渡しを行った。	児童・生徒 教職員 保護者	なし
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練 竜巻・ミサイル対策時の確認
		令和4年12月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	国交省国土技術政策総合研究所 道路地震防災研究室 長屋和宏様の授業実施
		令和4年12月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	国交省国土技術政策総合研究所 道路地震防災研究室 長屋和宏様の授業実施
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
⑮みどりの学園義務教育学校	みどりの学園義務教育学校	令和4年7月	PTA・学校サポーター組織の学校防災に係る取組	教職員・地域の方々	横断旗配布
		令和4年7月	取組名：地域安全会議 取組の説明：登下校時の安全の協議 立哨場所、担当者の確認	地域代表者	横断旗配布 谷田部交番職員、 市防犯交通安全課職員
		令和4年9月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒	地震を想定した全校避難訓練の実施及び保護者への引渡し
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	動画による緊急地震速報訓練の実施
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災を想定した避難訓練の実施

学園名	学校名	日程	内容	参加者	講師等
⑯学園の森義務教育学校	学園の森義務教育学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練 避難経路・場所確認
		令和4年5月	避難訓練	教職員・全校生徒・地域の方々	避難訓練 様々な災害を想定し1～6年のみ保護者への引渡し
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	9月～11月にかけてつくば市と防災マップの作成を行った。
		令和4年9月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	9月～12月防災バックに必要な物を検討し、考えを共有した。
		令和4年12月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練 不審者を想定 つくば警察署生活安全課
		令和5年1月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	8年生	避難所で私たちにできることは！
		令和5年2月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練
		令和5年2月	つくばスタイル科 講話等の聴講	5年生	防災講演会 国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様

令和4年度(2022年度)の事業内容(各学園の取組) 成果と課題

学園名	成果	課題
1 大穂学園	<p>計画段階でも、専門的な知見からの意見が防災意識を高めることにつながった。新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえた情勢に合わせた災害避難対策について、意識化を図ることができた。</p> <p>引き渡し訓練を3年ぶりに実施することができた。改めて、緊急時の避難方法を確実に確認することができた。</p> <p>学園防災連絡会議は、実施中止をすることになったが、緊急情報メール配信システムへの登録確認を随時行えた。</p>	<p>地域との連携による防災力強化として、学園合同の防災連絡会議は、三密を避けて規模を縮小して実施することには限界がある。3年連続で中止となったが、経験値を積むためにも実施方法を再検討する必要があると考える。コロナ禍において各校工夫して避難訓練等を実施しているものの、災害が起きた際に的確に判断し行動する能力の育成が重要である。</p>
2 豊里学園	<p>今年度も学園全体での事業ができなかったため、学園全体での引き渡し実施時の課題を確認することが出来なかった。</p>	<p>学園内の会議などを通じて、避難所での中学生の役割が確認できた。</p>
3 輝翔学園	<p>地域防災連絡会議は、学校教職員、地域・防災関連者(区会、消防団、防災ボランティア等)、PTA関係者が一同に会し、防災について話し合う貴重な機会である。今回は、防災倉庫収納品についてや災害時の避難についての説明を聞き、実際に災害が起きた時の各地域、消防団、学校の役割について話し合った。</p> <p>区長同士が集まり、具体的にどのように動けばいいのかを確認し合えたことは大きな成果であると考えられる。また、危機管理課の方や輝翔学園の学校間で、学校の役割について明確にできたことも成果である。</p>	<p>できるだけ多くの方に参加していただきたいの思いから、今年度は昨年度より開催時刻を遅らせて、午後6時からの開催とした。しかし、実際には、36名(35%)の参加率であった。災害はいつ起こるかかわからないので、平常時の備えが重要である。そのため、地域防災連絡会議には、より多くの方に参加していただきたい。周知方法や内容等を工夫し、参加率を上げていくことが課題である。また、会場や駐車場の準備については、会場校の負担が大きいことも課題である。</p>
4 高山学園	<p>引渡訓練は、学年をしばって実施した。コロナ禍を配慮した実施方法も定着しつつある。各校とも、自校の状況に応じた実践が出来た。</p>	<p>次年度は、香取台小学校が開校するので、学園全体での防災に関する情報共有、実践が必要となる。</p> <p>学園全体での地域防災会議もコロナを鑑み実施していない状況である。今後、連携も含め検討が必要である。</p>
5 光輝学園	<p>学園合同引渡訓練は通常開催とした。保護者引渡の連絡方法については、昨年度の反省から緊急情報メールが使えなくなる状況を考慮し、スクリーンを併用してスムーズに連絡ができた。</p> <p>防災会議は感染症対策のためオンライン開催としたが、第2回の防災科学技術研究所 池田先生を講師に招いた講話では、多くの質問もあり活気あふれる会議となった。</p>	<p>防災の講話をいただくに当たり、講師の先生をお招きするのに苦慮すると考える。オンライン開催と対面を併用した講話としたが、せっかくの機会なので参加者を増やす工夫をしたい。</p>
6 洞峰学園	<p>学園の小中学校で連携を図りながら、地震を想定した引き渡し訓練を行う計画を立てることを通して、具体的な非常時の対応について、学園内の教職員、保護者、児童生徒が共通理解することができた。</p>	<p>計画当日は、荒天のため実施することができなかった。実際に訓練をすることが大切になってくるので、次年度以降は予備日等についても検討し、年度内に実施ができるようにしていきたい。</p>
7 桜学園	<p>第2回桜学園防災会議では、長坂先生に講演していただいた。(オンライン開催)</p> <p>大変有意義な講演であり、参加した地域住民からは地域に伝えたいという感想があった。</p> <p>教職員、地域住民ともに防災意識を高めることができた。</p>	<p>引渡訓練では迎えに来るのが遅い保護者がいる。また、パソコンに不慣れでオンライン会議に参加できない住民がいた。</p>
8 竹園学園	<p>地震が起こったと想定しての避難訓練であるので、道路状況等もあるが、基本、徒歩での来校、引渡しを行った。実際にどのくらいの時間がかかり、どのようなルートで帰宅するのか、考えるよい機会となった。道路寸断されていたり、信号が転倒していない場合はどのようにしたらよいのか等も投げかけを行った。親と子で災害に対して考えることでより危機感を感じられた。</p>	<p>実際に引渡の状況が起こった場合、長い時間、親と連絡がつかないことも考えられる。いかにして早急に連絡を取り合っていけばよいのかを考えたい。避難訓練時でも親との事前の連絡と違うことが見られ、児童が戸惑ってしまっている状況も見られた。</p>

学園名	成果	課題
9 桜並木学園	過去実際にあった災害を例に、災害時には、地域の協力体制が必要であること、また、普段から災害に備えての準備が最重要であることがわかった。学校としては、児童生徒に、避難訓練などを通して「災害が起きたら・・・。」について、考えさせることが大切だということを理解した。実際、災害は、突然起こることであり、「そのときどうしたら身を守るか」を児童生徒がとっさに考えて行動に移せることが重要である。そう考えると、従来の避難訓練を考えなおす必要性があるということを感じた。この講話を今後の避難訓練に生かしていきたい。	今回は、コロナ禍のため、リモートで会議を実施した。講師の長屋先生の講話はとても有意義であり、地域のなるべく多くの方々に関わってもらいたいところであったが、リモート会議の経験が少ないの方々にとっては、参加が難しい状況が見られた。各校に分散して視聴するなど今後にかかしていきたい。
10 吾妻学園	例年実施している防災キャンプは、2日間に分けてデイキャンプとして実施し、参加者の分散化を図り実施することができた。 1年生の児童が地域の危険箇所を知ることができた。また、災害が起こった時の身の守り方を学び、これからの生活に生かそうとすることができた。 5年生は、大きな災害が発生して、ライフラインが途絶えたときに、家庭にある食材を活用して生き抜いていくための食事を作る方法を学ぶことができた。	学園防災会議については実施できなかった。コミュニティ・スクール発足に伴い、学園防災会議の統合を検討中である。 新型コロナウイルスのために、縮小した防災行事とした。社会的な状況が改善された場合の計画についての連携方法について検討していく必要がある。
11 荃崎学園	学園合同引渡訓練の実施においては、緊急時の連絡方法や引渡方法等の確認を行うことができた。 学校防災連絡会議では、「コロナ禍における災害時の『避難』を考える」をテーマに研修を行った。「避難所で生活する被災者は『お客様』ではなく、全員が『運営者』であること」、また「在宅避難」「縁故避難」等の分散避難も積極的に活用して対応することが重要であるとの理解を深めることができた。	避難所の開設が必要となった場合の初動体制の確立。配慮が必要な方たちのためのスペースの確保を最優先して対応する必要がある。「場所取り」が始まってしまうと、再配置することが難しい。具体的な対応策としては、「空間配置図」を掲示がある。さらに、「避難所生活ルール」を早急に掲示することで、混乱を最小限に抑えることができると考えられる。これらの準備を検討したい。
12 高崎学園	今年度は合同引き渡し訓練、地域講師を招いての避難訓練を実施することができた。職員の動きの確認や天候が不安定な時の避難時の課題について確認することができた。また、5年生の防災マップ作りや9年制の避難所でできることなど、災害発生時に自分たちができることについて考えを深めることができた。	防災連絡会議については、卒業式や、高校入試を控え、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら検討する。今年度も協議できなかった「避難所運営」について、提案資料をもとに次年度協議し、具体化させることが課題である。また、各種行事の影響を受けない7月下旬から8月に防災連絡会議の開催を変更する。
13 秀峰筑波義務教育学校	防災マップ作りや水害に関するマイタイムライン講習など、外部講師を招いての学習を行うことで、児童は新しい学びがあったと感じる。	「地域との連携」という部分に関しては、企画、実施がなかなか難しく、引渡訓練と学校防災研修会のみであった。コミュニティスクールが進むことによって、企画しやすくなる部分もあるかと思うので、次年度以降の課題としたい。
14 春日学園義務教育学校	緊急時の連絡・誘導系統の確認ができた。 避難経路の確認ができた。 保護者へ無事に引き渡し、災害時に安全な下校を行う訓練となった。 保護者との連携を確認することができた。	教室からの避難方法については、児童生徒も理解できたので、特別教室やトイレ、体育館等にいた場合は、どのように行動したらよいか考えさせる。 児童生徒に予告なしで避難訓練を行っても、自分の身は自分で守る行動ができるようにする。
15 みどりの学園義務教育学校	新型コロナウイルス感染症の影響で外部講師や地域と連携した防災事業は中止した。(9/12引き渡し避難訓練を除く)	今年度も地域と合同で実施する防災訓練等については、実施することが非常に困難であった。保護者や地域の方々との連携強化が課題である。今後も、新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら、防災力の強化・推進を図っていきたい。
16 学園の森義務教育学校	全校児童・生徒を動かした避難訓練が第1回～3回までできなかったため、第4回を計画した。日本一の児童・生徒数を動かす経験ができた。引渡訓練も雨天であったが実行し、校舎内での引き渡しを行うことができた。ハンド型ミニメガホンが有効利用することができた。 不審者の避難訓練では、つくば警察署の人から警察官の視点でアドバイスをいただけた。	消防署や警察署との連携はできるが、児童生徒に顔の見える指導や体験が感染症が流行してからはできていない。Jアラートや竜巻の訓練も感染症対策をしつつ計画できるよう工夫する必要がある。 不審者対応で教室の中が見えなくする工夫。(新館のみ)紙か布を画紙で留める。

令和4年度（2022年度）の事業報告（各学校の取組）

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
①大穂学園	大穂中学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(大地震発生想定)
		令和4年7月	教職員研修	教職員	オンライン心肺蘇生・AED 教職員研修
		令和4年9月	授業・訓練時以外での防災に係る取組	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練 大地震から火災発生想定
	大曽根小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	新学期が始まってすぐに避難訓練を行うことにより、避難経路の確認と身を守るための安全な行動を意識し、適切な行動をとることができた。
		令和4年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	地域防災連絡員の皆様に引渡訓練の様子を参観していただいた後、訓練の内容について振り返りを行った。
		令和4年6月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	6年生	国語「防災ポスターを作ろう」では防災ポスターを作り、防災の意識が高まった。
		令和5年2月	その他の学校防災に係る取組	全校生徒	トルコ大地震について触れ、学級ごとに甚大な震災の状況について触れ、追悼の意を表すとともに、改めて防災意識について認識を深める指導をした。また、JRC委員会を中心に募金活動をする予定。

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
①大穂学園	前野小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年6月	教職員研修	教職員	AED研修
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年2月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年2月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	国土交通省国土技術政策総合研究所と連携した防災マップ作り
	要小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(火災・地震。避難経路確認)
		令和4年7月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	全校生徒	避難訓練(竜巻・雷・台風)防災啓発ビデオ視聴「急な大雨・雷・竜巻から身を守るう」「解説編の視聴」
		令和4年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	防災倉庫の中身を知り、災害時のための日常の取組や備えについて話し合った。
		令和4年8月	授業・訓練時以外での防災に係る取組	教職員	オンラインによる心肺蘇生。AEDの使い方研修
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年1月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	自分の住んでいる地域の防災マップ作成をする。

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
①大穂学園	吉沼小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震想定
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災想定
		令和4年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	自分の住んでいる地域の防災マップ作成をする。
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年12月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	竜巻想定

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
②豊里学園	豊里中学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年11月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	8年生	
		令和5年2月	教職員研修		
	上郷小学校	令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年9月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	4年生	
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応
	今鹿島小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	竜巻・Jアラート対応避難訓練
		令和4年5月	PTA・学校サポーター組織の学校防災に係る取組	その他	通学路安全点検
		令和4年6月	その他の学校防災に係る取組	その他	地震対応避難訓練+引き渡し訓練
		令和4年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震対応シェイクアウト訓練
		令和4年10月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	4年生	防災設備・防災倉庫見学
		令和5年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災対応避難訓練・通報訓練・消火訓練・講話(市中央消防署豊里分署)

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
②豊里学園	沼崎小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年10月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和4年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和4年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年12月	教職員研修	教職員	
③輝翔学園	谷田部中学校	令和4年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災想定
		令和4年7月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	8年生	防災ハンドブック作成
		令和4年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震想定
		令和5年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者想定
	谷田部小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	全校生徒	
		令和4年11月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
③輝翔学園	谷田部南小学校	令和4年6月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和4年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	谷田部幼稚園と合同
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
	柳橋小学校	令和4年5月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震に対する避難訓練
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者に対する避難訓練
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災に対する避難訓練
		令和5年1月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年2月	防災教室	5年生	
		令和5年2月	学校防災手帳作成	5年生	
		令和5年2月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
④高山学園	高山中学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年2月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
	真瀬小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年1月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	講師:国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	防犯に関する取組
	島名小学校	令和4年5月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年12月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑤光輝学園	手代木中学校	令和4年5月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震・火災
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震
	手代木南小学校	令和4年5月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒・地域の方々	学園合同引渡訓練 地震
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震・火災
		令和5年2月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	竜巻
		令和5年2月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年2月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑤光輝学園	松代小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難経路確認
		令和4年7月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒・地域の方々	不審者侵入 警察署員の講話および教職員のさすまた使用訓練
		令和4年9月	防災教室	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練・竜巻災害時の避難について
		令和5年1月	PTA・学校サポーター組織の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	避難訓練及び防災教室 防災士講話煙体験
	葛城小学校	令和4年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒	地震避難訓練後、引渡訓練
		令和4年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和4年9月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災・竜巻対応
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応
		令和5年1月	防災教室	4年生	葛城版コミュニティ・スクール(防災かまどベンチ) 危機管理課(防災倉庫の物品)
		令和5年2月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑥洞峰学園	谷田部東中学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震による避難 避難経路確認
		令和4年5月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	8年生	世界の災害や災害から身を守るための調べ学習・成果発表
		令和4年6月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	その他	不審者対応。教室バリケード作成手順確認。つくば警察署との連携
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	竜巻による避難 避難経路確認
	小野川小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災
		令和4年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和4年7月	教職員研修	教職員・地域の方々	放射線に関する教職員研修
		令和4年7月	防災教室	4年生	放射線に関する出前授業
		令和4年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	竜巻
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震から火災

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑥洞峰学園	二の宮小学校	令和4年5月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年6月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和4年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
	東小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年6月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和4年7月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和4年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑦桜学園	桜中学校	令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災を想定した避難訓練。避難経路確認。
		令和4年10月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	9年生	避難所レイアウト検討
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応避難訓練
		令和5年1月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	7年生	マイタイムライン作成
	栗原小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災を想定した避難訓練 避難経路確認
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年9月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	5年生	水害時のタイムライン作り
		令和4年10月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	竜巻、風水害を想定
		令和4年10月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	全校生徒	竜巻、風水害の被害と対応について動画視聴、指導
		令和4年10月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	国土技術政策総合研究所 長屋 和宏様による指導
		令和4年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	7学年との交流
		令和5年2月	学校防災手帳作成	5年生	市の指定事業

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑦桜学園	九重小学校	令和4年6月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年9月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	異学年交流	
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年10月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
	栄小学校	令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年10月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和4年12月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年2月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	5年生	県防災課とのマイタイムライン作成授業
		令和5年2月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	6年生	心肺蘇生法研修

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑧竹園学園	竹園東中学校	令和4年7月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	8年生	災害時の避難所設営について
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(地震を想定したシェイクアウト訓練)
		令和4年10月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(竜巻を想定した訓練)
		令和5年2月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(不審者侵入を想定した訓練)
	竹園西小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震からの災害想定(経路確認も含む)
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年10月	つくばスタイル科 講話等の聴講	3年生	防災教室
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	緊急地震速報訓練
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑧竹園学園	竹園東小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年6月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和4年8月	その他の学校防災に係る取組	教職員・地域の方々	令和4年度学校安全総合支援事業 第1回実践委員会
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年10月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和4年12月	その他の学校防災に係る取組	教職員・地域の方々	令和4年度学校安全総合支援事業 第2回実践委員会
		令和5年2月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑨桜並木学園	並木中学校	令和4年4月	教職員研修	教職員	避難経路確認
		令和4年5月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年5月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	8年生	災害時に自分たちにできることは！(全4時間)
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災及び地震による避難訓練
		令和5年1月	教職員研修	教職員	救命救急講習
		令和5年2月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	7年生	災害時に自分たちにできることはなんだろう！(全6時間)
		令和5年2月	その他の学校防災に係る取組	教職員	防火器具の点検・整備

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑨桜並木学園	並木小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年5月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年6月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	引渡訓練
		令和4年7月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応避難訓練
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年1月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	4年生	
		令和5年2月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災及び地震による避難訓練
		令和5年3月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑨桜並木学園	桜南小学校	令和4年6月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	引渡しを想定した避難訓練
		令和4年8月	教職員研修	教職員	災害発生時、学校が避難所となった場合の対応について
		令和4年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	6年生	
		令和4年12月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応避難訓練
		令和5年1月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	4年生	
		令和5年2月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震及び火災による避難訓練
⑩吾妻学園	吾妻中学校	令和4年5月	その他の研修、講話等	8年生	「防災学習」 国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
	吾妻小学校	令和4年7月	つくばスタイル科 防災マップ作成	1年生	「防災マップ作成」 国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和4年10月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	5年生	防災デイキャンプ 学校を避難所と想定してサバ飯を作り、避難所生活の体験と防災学習を行う。(おやじの会主催)

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑪ 茎崎学園	茎崎第二小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震
		令和4年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和4年12月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者
	茎崎中学校	令和4年5月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年2月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
	茎崎第三小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災時の避難経路確認
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	つくば中央警察署生活安全課、茎崎交番に講師依頼
		令和5年1月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年1月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	県防災危機管理課 鈴木様による出前授業

学園名	学校名	日程	取組	対象者・対象学年	実施内容・備考
⑫高崎学園	高崎中学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒・地域の方々	火災を想定し、避難経路の確認。茎崎消防署から講師を招き、初期消火訓練の実施。
		令和4年5月	教職員研修	教職員	危機管理マニュアルについて
		令和4年6月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	9年生	避難所で私たちにできることは！
		令和4年7月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	9年生	避難所で私たちにできることは！
		令和4年9月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	竜巻を想定し、教室でバリゲードをつくり避難方法の確認。
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	授業中に実施時間を告げずにシェイクアウト訓練を実施。地震の際の身の守り方を確認。
	令和4年12月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒・地域の方々	不審者を想定し、避難の方法の確認。つくば警察署から講師を招き、緊急通報や不審者対応について職員の動きを確認。	
	茎崎第一小学校	令和4年4月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震想定避難訓練を実施。避難場所の確認(校庭)
		令和4年4月	教職員研修	教職員	学校の防犯状態の確認(防犯カメラの位置、敷地内に進入できる場所の確認等)
		令和4年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和4年11月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災想定避難訓練を実施。また茎崎消防署の協力を得て、消火器の使い方および消火訓練を実施
		令和5年1月	避難訓練(引渡訓練を含まない)	3年生	外部講師(防災科学研究所)から天災被害からの防災について学んだ
令和5年1月		つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生		

○令和4年度（2022年度）の事業報告（学校防災推進委員会）

① 第1回学校防災推進委員会（令和4年6月27日開催）

内 容：令和3年度（2021年度）の事業内容について
令和4年度（2022年度）の事業計画について

第2回学校防災推進委員会（令和5年2月22日開催）

内 容：令和4年度（2022年度）の事業報告

② 学校防災研修会（令和4年12月9日開催）

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

池田真幸様による講演

演題 「学校防災について」

参加者 学校関係者 地域の方々等 77名

③ 学校防災手帳作成

学園の森義務教育学校、栗原小学校、前野小学校、柳橋小学校で作成

その他

防災訓練視察（視察場所：小野川小学校）

各学校で行われている防災訓練について委員による視察を行った。

地震や火災を想定した避難訓練で、校庭への避難と消火器の体験、煙中体験車で
の煙が発生する中での避難の体験、消防車の見学を行った。

国立研究開発法人土木研究所 水害VR体験事業の紹介

国立研究開発法人土木研究所が中高生年代の防災意識の向上を目的に開発した
「水害VR」の体験事業を展開するに当たり市内各校に周知し、谷田部東中学校、学
園の森義務教育学校、手代木中学校の科学部が参加した。

※「水害VR」……国立研究開発法人土木研究所が若い世代に防災について関心を持
ってもらうため、水害をVR体験できるシステムを開発したもの。事前にタイムライ
ン（避難などの行動方針）を考え、ゴーグルを装着して映った仮想世界の中でキャ
ラクターを操作して、水害から安全に避難することを目指す。

会 議 録

会議の名称		令和5年度（2023年度）第2回つくば市学校防災推進委員会	
開催日時		令和6年（2024年）2月22日（木曜日） 開会15：30 閉会17：00	
開催場所		防災会議室3	
事務局（担当課）		教育総務課、学び推進課	
出席者	委員	森田充会長、吉沼正美副会長、柳下英子副会長、久保田靖彦委員、中野真粧美委員、茂在哲司委員、川瀬和恵委員、内野隆之委員、登坂美彦委員（代理出席）、美野本玲子委員、吉田和敏委員、水橋光一委員、山岡めぐみ委員、下田裕久委員、鈴木聡委員、柳町優子委員、宮内周也委員（代理出席）、中島澄枝委員、澤頭由紀子委員、石橋充委員	
	その他	長屋和宏	
	事務局	教育総務課：課長補佐 飯村賞賜、係長 光田和則、主任 谷沢潤一郎	
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 1名
非公開の場合はその理由			
議題		(1) 令和5年度（2023年度）の事業報告（学校防災推進委員会）について (2) 学校防災手帳の概要について (3) 令和5年度（2023年度）学校防災事業報告について（各学園・各学校） (4) 地震を想定したショート防災訓練の実施について	
会議録署名人		確定年月日	平成 年 月 日
会議	(1) 令和5年度（2023年度）の事業報告（学校防災推進委員会）について (2) 学校防災手帳の概要について (3) 令和5年度（2023年度）学校防災事業報告について（各学園・各学校）		

次 第	(4) 地震を想定したショート防災訓練の実施について
--------	----------------------------

< 審議内容 >

1 開会

事務局：教育総務課の飯村と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日の会議は、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例に基づきまして、会議を公開いたします。

また、会議録を作成し、つくば市のホームページに公表いたします。

なお、記録のため発言の際にはマイクの使用に御協力をお願いいたします。

それでは、ただいまから令和5年度第2回つくば市学校防災推進委員会を開会いたします。

開会に当たりまして会長である教育長から御挨拶申し上げます。

教育長：皆さんこんにちは。本日は大変御多用の中、令和5年度第2回つくば市学校防災推進委員会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

今年は元日早々から、能登半島で本当に大きな地震がありました。ちょうど1回目の地震が起こって、現地の映像が映っている中で2回目の地震が発生して、崩れていく家の様子や、人が逃げる姿などが実際に映し出されたというところで非常に衝撃を受けました。その後に発生した火災や避難の様子など、非常に大変な状況であることは肝に銘じて、私たちのところにも大きな地震が来るかもしれないと、そういう思いでいなければならないと切実に思いました。

つくば市でも6月には台風の影響で谷田川が越水して、荃崎地区の一部で冠水が発生するという事もありました。

今後、いつ大きい地震が来るかわからないという状況の中で、私たちは学校の防災力を高めるために様々な取組をしなければいけないと思っています。

この委員会は防災力を高める、今後の対策を考えていくという意味で大変重要な会議だと思っておりますので、皆様からは忌憚のない御意見を頂戴して、今後に生かせればと思います。何卒よろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。

それではつくば市学校防災推進委員会設置要項の第三条、第1項及び第2項に基づきまして、これからの進行は会長である教育長にお願いいたします。

会長：よろしくお願いいたします。では議長を務めさせていただきます。

今日の内容につきましては次第(1)から(4)まで用意されておりますので、この順に従って進めていきたいと思っております。

まず(1)令和5年度の事業報告、学校防災推進委員会の説明を、事務局の方からお願いします。

事務局：本日説明を務めさせていただきます教育局教育総務課の谷沢と申します。よろしくお願いいたします。

それではまず、学校防災推進委員会の事業報告、資料1を御覧ください。

本学校防災推進委員会の事業としまして、まず6月28日に第1回となる学校防災推進委員会を開催しました。

昨年度の事業内容と今年度の事業計画について、こちらでお示ししております。

続いて、本日に当たるのが第2回の防災推進委員会ということで、今年度に行われた事業報告を行います。

その他、学校防災推進委員会の事業としましては、学校防災研修会を12月5日に開催しまして、こちらは防災科学技術研究所の池田様に御講演をいただきまして、「気象災害と学校防災」という演題で、学校関係者や保護者の方に参加いただきました。

また、防災推進委員会の事業であります学校防災手帳の作成でございますが、今年度は、秀峰筑波義務教育学校と二の宮小学校、高崎中学校、荃崎第一小学校を高崎

学園として、これらの学校で作成をしております。

その他といたしまして、沼崎小学校と吾妻小学校にて、防災訓練の視察を行いました。こちらの視察の報告につきましては、後ほど詳しく報告をいたします。

今年度の推進委員会の報告としては以上になります。

会長：ありがとうございます。ただいま説明した内容について、何か質問や、御意見等ありましたら頂戴したいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは(2)番の方に進んでいきます。

学校防災手帳の概要について、また事務局の方で説明をお願いします。

事務局：それでは、つくば市学校防災手帳の概要についてという資料2の資料を御覧ください。

こちらは第1回の推進委員会でもお示しさせていただいた資料ですが、学校防災手帳の作成が推進委員会の重要な事業の1つでございますので、重ねて御説明いたします。

目的としましては、携帯できるサイズの防災手帳を児童生徒に提供して、日常生活や授業に活用してもらうことで児童生徒及び保護者の自助共助の向上に資するというところで作成しております。

事業の概要としましては、ハザードマップ等の行政機関が発行している情報と、つくばスタイル科等で児童が学ぶ情報、まち探検の調べ学習など児童の学習成果を組み合わせて、携帯できる防災手帳を作成するものです。

先の報告と重なりますが、今年度の作成校としましては、秀峰筑波義務教育学校、二の宮小学校、高崎学園の3つの地域でそれぞれ作成しております。

これまでの作成校については、資料にお示した通りでございます。これまで市内の約半数ほどの学校で防災手帳を作成しております。

その他参考情報としては、国土交通省国土政策総合研究所の長屋先生の御協力のもとに作成をしております。掲載する情報につきましては、吾妻学園の防災手帳や、つくば市の総合防災ブック、或いはハザードマップなどの情報を活用しております。

す。

その他載せている情報として110番の家やAEDのデータなどがありますが、110番の家については各学校に照会をかけて各学校のデータを活用したり、AEDについては、茨城県の登録制度に登録してある施設をまとめております。

学校防災手帳の作成の概要については以上となります。

会長：ありがとうございました。

ただいまの説明についての質問確認事項ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。内野委員、どうぞ。

内野委員：市P連の内野と申します。防災手帳は学校ごとに内容が違ってくるとい
うことですね。そうすると、学校ごとに手帳にかかる予算も変わってくるという
ことになりますか。

会長：実物はこのようなもので、基本的にはどの学校も同じような形ですね。
折り曲げるとポケットサイズになって、手軽に持ち歩けるというかたちです。
それをつくばスタイル科で情報を集めていくという、そのような考え方のもので
す。予算の方はどうですか。

事務局：事務局谷沢です。予算については、30万円ほどの予算で作成しております。

会長：全部の学校で30万円ですか。

事務局：そうですね。3校から4校分の予算として、30万円ほどの予算で作成をし
ております。

会長：内野委員、何か御意見ありますか。

内野委員：まだ作成していない学校は、これから順次作っていくのでしょうか。

事務局：お見込みの通り、作成の希望を取りながら、その取組を全校に広げていこ
うという趣旨で活動を進めております。

内野委員：内野委員：分かりました。ありがとうございます。

吾妻小学校でしたか、最初に作成した学校は県の安全互助会の補助金を利用したと

いう話を伺ったことがあるのですが、より立派なものを作成したい学校はそのような補助金を使うという形でしょうか。

事務局：ありがとうございます。この防災手帳を参考に、独自の互助会の予算、或いは他のところから補助金を活用したりなどして、類似の防災手帳を作成しているという学校やPTAなどもございます。

会長：ありがとうございます。長屋先生に吾妻小学校で事業を始めたときの当事者として経緯と趣旨などをお話いただければ。

長屋先生：この件を補足させていただきますと、当初は平成 26 年に茨城県の取り組みとして「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」というものがあり、その助成金で作成されました。その後、平成 30 年よりつくば市の事業として「学校防災手帳」が取り入れられ水平展開が進められた状況です。

吾妻学園はPTAやおやじの会が中心となって改訂をしてきていますが、独自に予算を確保して進めています。

今年は茨城県PTA安全互助会の「健康・安全教育支援事業」の支援を受けて改定を進めており、第5回目の改訂となります。

吾妻学園がなぜ継続的に改訂をしているかと申しますと学校防災手帳を使って毎年1年生の防災授業を実施しており、このサイクルを継続的に10年ほど続けています。

つくば市の防災手帳については、作成して、配布しておわりになっているところがあります。しかしながら、一昨年年度に制作した沼崎小学校では今年度、それを使って、吾妻学園と同じように1年生向けの防災授業を実施しています。このように、継続的に活用するというサイクルが出来上がりつつあるのではないかと思います。

内野委員：ありがとうございました。もっと立派なものを作るかどうかは、結局はPTAのやる気にかかっている、学校が主体的にやるわけではないですね。

長屋先生：PTA及び保護者が熱心であることはもちろんですが、学校の先生方も必要性を認識していただき、継続されてきています。また、コミュニティスクールの

ように連携がうまくいっている1つのケースではないかなと思います。

会長：ありがとうございます。長屋先生からありましたように、防災手帳を継続して活用していくという部分を今後考えなくてはいけないのかなと。なかなか上手く活用されていないという部分もあるのかというのが、校長先生方とも冒頭でお話をして感じたところです。

1年生が最初に必ずこの防災手帳を使って学習するという、そのような仕組みは大事じゃないかと思いますが、宮内指導主事、つくばスタイル科の中で防災教育について上手く取り込めるかどうか、組み立てられるかどうかというのはどうですか。

宮内委員：学び推進課の宮内です。よろしくお願いいたします。

つくばスタイル科の中にもコア单元として防災の单元が必ず組み込まれておりますので、その中で各学校の独自性を持って組み入れることは可能かなと思います。つくば市の場所によっても河川の氾濫がメインになってくる場所であったり、筑波山に近い地域になるとやはり土砂災害、そういったものも関わってくることもあります。地域の特性を生かして地域の実態に合ったプラスアルファのサテライト单元というものも設定することができますので、学校の立地、場所に合った、自分たちに寄り添った防災手帳作りには十分発展する内容だと考えます。

会長：ありがとうございます。その中でやっぱり、長屋先生が仰ってくださったように1年生が入ったときにきちっとこのようなことを理解していくということが大事なことだと思います。

吾妻小のようにお金をどこからか調達してこないと1年生の分が作れないという状況があるように感じますので、1年生分を増刷するようなお金といますか、内容を何年かに1回は改定するというようなことも考えなくてはならないのかという、それが課題なのかなと、いろいろとお話を伺っていて感じます。

山岡課長いかがでしょう。

山岡委員：教育総務課の山岡です。よろしくお願いいたします。防災手帳担当課となっております。

教育総務課としても課題と感じておりまして、学校もまだ半分程度しか作成できていない状況で、大きな災害は本当にいつ起こってもわからない状況になっておりますので、そのようなことを意識して備えるためにも、いち早く全校に配布できるようにするとともに、内容の更新といったことについても、定期的に情報を更新できるような取組を行っていきたいと考えております。

会長：できるだけ予算も必要なところなので、協議して進められるようにしていければと思います。子供たちが防災のことを身近に思っ、自分事としていつも考えていくということと、それから何かあったらすぐに対応できるものが身近にあるということがすごく大事だと思うので、そのような点をこれからきちっと成果として示すことができるように、事業を改善していきたいと思っています。

では、学校防災手帳のことについてはここまでとしたいと思います。

では（3）令和5年度の学校防災事業報告についてですが、資料3、4を使って、事務局で説明をお願いします。

事務局：続きまして、議事様の学校防災事業報告、各学園各学校の取組についてご紹介いたします。

まず資料3ですが、こちらは各学園各学校の今年度の防災に関わる取組の報告をいただいて、まとめたものです。

こちらにつきましては、主に地震、火災、不審者対応などの防災訓練等の取組について、各校水平展開で進めておりますので、資料を御覧いただくかたちで報告に代えさせていただきます。

続きまして資料4ですが、こちらが各学園から今年度の防災、事業に関わる成果と課題ということで挙げていただいたものになります。

こちら、各学園からそれぞれ成果と課題を挙げていただきましたが、抜粋して主な意見を上げさせていただきます。

成果としては、春日学園ですが、緊急時の連絡や誘導関係の確認ができたこと、避

難経路の確認ができた訓練になったとの報告がありました。

また、保護者との連携を確認することもでき、不審者の対応の訓練については、研修を実施することができたということを挙げていただいております。

豊里学園からは、地域、学校防災連絡会議の講話について報告していただきまして、地域の防災のために地域が備えることを中心に御講演いただいたとのことでした。その中で、簡易トイレの使い方についても取り入れ、そのトイレの使い方について、参加者から様々な意見や感想が出され、地域の防災への意識がかなり高められたという報告をいただいております。

課題といたしましては、主に引渡し訓練について御意見をいただいております。

こちらも読み上げさせていただきますと、竹園学園からいただいたものにつきましては、実際に災害が起こった場合に、保護者と連絡がつかないことが考えられるとのことで、いかにして早急に連絡を取り合っていけば良いのか考えたいとの報告があります。避難訓練の際にも、保護者の方との事前の連絡と違うことが見られまして、特に児童が戸惑ってしまっている状況も見られたとのことでした。

これらのことから、実際の災害の際に、いかにスムーズな引渡しや避難ができるかが課題であると挙げていただいております。

また、みどりの学園からは、引渡し場所を校庭にした場合に、前期課程や後期課程の学園生が並び、学級の表示があっても混雑すると予想されるとのことで、校舎内に留まることができない場面を想定しての訓練も必要であるといただいております。

この訓練は実施日時を通知しての訓練だったので、保護者の引き取りの際には長い時間はかからなかったと挙げていただいておりますが、実際の災害が起きて突発に引き渡さなければならないような状況の際に、通信手段の途絶ですとか、或いは連絡が取れない場合、非常時の事態についても、具体策を講じる必要があると報告をいただいております。

会長：事務局から報告がありましたけれども、この中に竹園学園の報告もありまし

た。今日はちょうど竹園学園の校長先生方が2人いらっしゃいます。茂在校長先生、報告に付け加えることや、詳しく述べるというところをお願いします。

茂在委員：竹園東中学校の茂在と申します。よろしくお願いします。

こちらにありますように成果と課題が竹園学園で上がっておりますが、成果としては、校舎が特殊な造りでもあり、この機会に保護者の動線というものを明確に見極めることができました。

これがちゃんと明確に分かっていないと、入ってくる保護者、出て行く保護者が混雑してしまって、将棋倒しになってしまうような可能性もあるので、保護者の方も、当日の引渡しの際にはこの動線を使って、混雑にならないようにということを周知することができたところは、とても良かったと感じています。

連絡がつかないということも考えられると、前回の緊急メールの話もさせていただきましたが、本校ではそれに合わせてスクリレというものも導入させていただきましたので、緊急な引渡しが必要だというときには、メールの配信にプラス、スクリレでの配信ということで、2つの手段を講じれば、若干のタイムラグはあるにしても、保護者への連絡の漏れというものは極力少なくすることができるのかなということを感じております。

今後もよりリアルにやっていく必要があるのかなと思いますので、毎年行っていますがこれからも継続して、より実際に起きた場面を想定しながらの真剣な引渡しができるればいいと感じているところでございます。以上です。

会長：竹園西小学校ではいかがでしょうか。

柳下委員：茂在校長先生からあった通りです。

いくつか付け加えるならば、本校の場合は連絡事項が非常に多くありまして、緊急時のときには、星印をつけて最優先事項ですよということを保護者に一目でわかるような工夫をしています。

それでも連絡がつかなかった場合には、連絡が取れるまで本校に留め置いているということを周知するようにしています。

保護者説明会等がありましたときには、そのような連絡をしているところです。以上でございます。

会長：ありがとうございます。

人数が多いという報告がみどりののでありましたが、同じような状況が学園の森にもあると思いますが、今年防災訓練を実施したなかでいかがだったかということも含めて、もし課題感などもありましたら中野校長先生にお願いしたいと思います。

中野委員：1,800名の学園生の引渡しということですが、新型コロナウイルス感染症の影響で、本校では前期課程のみの引渡し訓練だけを実施してきたそうで、本年度も前期課程のみの引渡しとなりました。

グラウンドでクラスを表示して引渡すという予定はしていたのですが、当日雨になってしまったので、結局教室待機で保護者には教室に来ていただいて引渡すというような流れになりました。

人数が多いので、下駄箱、昇降口の混雑、それから教室での引渡しの仕方など、実施するなかで少し担任によってやり方が違ってしまったということがあったので、事前の共通理解をきちんと図っておくということ、共通理解を図ったつもりでしたが、なかなか全職員が同じ対応にならないということがあるというのが課題だと思っています。

また、後期課程も来年はきちんと実施しておいた方がいいということで、来年度に向けて準備を進めているところです。

会長：ありがとうございます。

1つ懸念されるのが、連絡が本当につくんだらうかということです。今はスクリレと緊急メールという手段が使われていますが。

前回、長屋先生からいざという時にこれで大丈夫かというお話をいただきまして、何度もお話をいただいてしまいますが、どのようにお考えなのかお話を頂ければと思います。

長屋先生：スクリレについては、仕組みを理解していないのでお答えは控えますが、

茨城県教育委員会の緊急メールに関しては以前もお話しましたが、もし茨城県下の学校すべてが同時に使うとすると、相当のタイムラグが出る可能性があります。

一方で、緊急時の連絡への懸念とのお話ですが具体的に何が懸念なのかを整理する必要があります。

もし、引渡しの周知ができないことを懸念する場合、そもそも緊急メールやスクリレのみに頼ろうとしていること自体が間違っているのではないかなと思います。もちろん、不審者対応などであれば状況はちがいますが、地震発生による引き渡しであれば、地震が発生したという事実は緊急メールやスクリレでの連絡が無くとも保護者は知ることができるはずなので、その場合の引き渡しのルールの問題だと思います。

今のお話は緊急連絡のことだけでしたが、他には触れて良いですか？

会長：どうぞ。

長屋先生：先ほど学園の森義務教育学校の訓練で悪天候で外に出るのをやめたということでしたが、実際の災害時はどうするんだろうと思いました。また、避難のそもそも論として、なぜ屋外に避難をするのか、その上で避難訓練をどうするのか、を整理して議論するのが良いのではないかと思いました。以上です。

会長：ありがとうございます。

前回もそのような話が出ましたが、確かにルールがどうなっているかというのがまず1つポイントのような気がします。

実際に地震が起こったとき、地震だということはみんなが分かることですから、地震が起こったらどうなるのかと。

連絡が来るまで動かなくていいわけではないと思うので、その手順を少し整理していく必要があるだろうなというのが1つあります。

また、連絡がつかないことを想定した場合にどういう対応になるのか、共通理解を図る必要があるかと思います。

今後教育局、教育総務課も中心になりつつ、学校と相談しながら、整理できるとこ

ろは整理した方がいいのかと思います。

幼稚園はそのところはどんなルールになっていますか。

川瀬委員：避難ということについては、前回もお話したと思いますが、幼稚園の場合は入園式の際に、震度5以上の地震があった場合には、お迎えをお願いするような手紙を配布して、園バスがあるところはその時点で行事を中止して幼稚園に戻ってくるので、幼稚園にお迎えをお願いしますと頼んでおります。事前に大きな地震があった際のお迎えのお願いについては通知しています。

それと併せて、前回の会議に出席して思ったことは、体育館も強度があるというお話もしていたので、小学校の校長先生にも相談して、すぐにお迎えがくる子ばかりでなく待つことになったときに、寂しくなってしまう子が出てきてしまうと。

その場合、体育館に小学生が逃げていたら、片隅に幼稚園の職員がつきますから入れてくださいという話もしたり、せつかく公立で連携が取れているのであれば、そのような考えもあってもいいのかなと思います。

何人かはお迎えに4、5時間かかるような子もいますので、小学校とも協力していけたらという思いがたくさんありますのでどうぞよろしく願いいたします。

以上です。

会長：事前はかなりルールを決めているという話でしたね。

前回も伺ったと思いますが、児童館の方はどうなっているのでしょうか。

吉田委員：こども育成課吉田と申します。我々児童館も同じように緊急メールで保護者に連絡するようなかたちで、やはり地域性があるので、防災訓練等は各児童館にお任せしている状況です。統一的に主管課である程度のルールを決めてやっていかなければならないのかなという思いがありまして、今後の対応を検討している状況でございます。

会長：ありがとうございます。

今後は引渡しの訓練も大事ですが、ルールづくりとか、その後の対応の共通理解というのが大事なのかと。それが本当に理に^{かな}適った対応なのかという、例えば外で待

つべきなのかどうかというのを含めながら、検討していく必要があるのかなと思います。あとは迎えに来られない状況になってしまうということも十分考えられると思いますが、そのような場合の対応は、学校では決まっているんですか。

中野校長先生どうぞ。

中野委員：迎えに来られない保護者の方もたくさんいらっしゃいますので、その場合は学校で留め置いて預かるというようなルールがあります。基本的には教室で待つというルールになっています。

ただしある程度の時間を過ぎて、本当に少数になってしまった場合には、図書メディアセンターにて集約をして預かって、保護者が来たら引き渡すというルールになっています。

会長：市としての避難所の開設とは別ということでしょうか。そのようなことですので、その整理も各学校でできるようにと思います。

内野委員は保護者の立場から、このようなことを学校の方で留意していただけたらという御意見や、気になっている点などがありましたらお聞きしたいと思います。

内野委員：防災倉庫が学校にあると思いますが、備品や消耗品を定期的に交換されていると思います。かつてその交換をするときに担当の方が来られて、PTAも含めて備品の使い方の研修会を併せて実施していた記憶があります。

そのようなことがコロナ禍もあって、なくなってしまったのかなと思ひまして、その辺りがどうなっているのかということと、訓練の時に備品を実際に使っているのかということ伺いたいです。

中身を詳細に把握しているわけではありませんが、簡易トイレや発電機などがありますよね。実際に使っていないと、いざ災害が起きて使おうと思っても使えないということになりかねないので、気になるところです。

会長：ありがとうございます。これは危機管理課の方でよろしいですか。登坂委員お願いします。

登坂委員：危機管理課の登坂と申します。先ほど防災倉庫のお話がありましたけれ

ども、入れ替え関係につきましてはすべて私達の課で維持管理をしております。入れ替えの際に防災倉庫の中身の説明を、というお話がありましたけれども、実際は学校のPTAさん側から中身の説明をしていただきたいというお話をいただいて行っているのです、入れ替えと同時に行っているわけではなくて、要望があった際には、私達が行ってご説明を差し上げているというかたちになっております。

また、発電機等の消耗品関係についても、すべて私達の課で維持管理をしております。以上です。

内野委員：ということは、要望がないとそれが行われないうままになってしまう可能性もあるということですか。

登坂委員：おっしゃる通りです。

会長：そのようなことをもっと周知して、要望を定期的にしていただくということも必要になるのでしょうか。

登坂委員：はい。

会長：備品なども、訓練のときにぜひ実際に使ってほしいですね。防災倉庫の鍵は学校にあるわけですね。

登坂委員：当然、すべて学校にもあります。

会長：例えば、休日のときには開けられるようになっていますか。

登坂委員：平日に関しては、市役所でも鍵は当然持っていますし、学校側でも持っています。学校によっては鍵を預けられる方、例えばPTAの方や学校に近い地区にお住まいの方にお渡ししている場合もあり、最大3つの鍵をお渡しできるようにしております。

ただ実際問題としては、最初に学校施設に到着できるとなると、やはり市の職員が一番早いのではないかと考えております。学校の先生はいろいろなところにお住まいですから、やはり市の職員が一番早いのではないかと考えます。

備品を訓練に使えるかというお話がありましたが、それに関してはルールがありまして、防災倉庫の中身を使う場合には危機管理課にご相談をいただいて、申請のもの

とで使えるようにしております。

会長：先の報告で豊里学園や大穂学園は簡易トイレを実際に使ってみたというのがあったと思いますが、これは危機管理課でお手伝いをしたということになるんでしょうか。

登坂委員：私たちもお手伝いしておりますし、国総研の長屋先生にも御協力いただきまして、様々な学園の方でそういったことを行っております。

会長：実際、今回の能登地震の報道を見ると、トイレの問題が大きく挙げられたように思いますが、トイレの問題について何か気をつけることであったり、説明をいただいた方がいいことはあるでしょうか。

長屋先生：私は能登半島地震での被災地のトイレの状況を直接存じ上げているわけではないので想像でお話しますが、おそらく今回の被災地でも簡易トイレはあり、活用されていると思います。

一方で、災害用トイレの使い方について段ボールトイレ等で使うことを想像する方が多いと思いますし、今回の被災地にも使い方を知らなかった人がいたと思います。

つくば市の防災倉庫に備蓄されている災害用トイレは排泄物を固める物なので、使う場所は自宅や学校のトイレでそのまま使うことができます。

一度、トイレを排泄物で汚してしまうとその後が使いなくなってしまうので、まず汚さないように災害用トイレを使いましょうというルールが決まっていれば、大きな問題を生じることなく使い続けることができます。

水がない状況で、いきなり通常通りにトイレを使うと詰まってしまい、流れないままその上から使い続けると完全に使用不可能になってしまいます。おそらくつくばで災害が発生すれば、同じことが起こると思います。簡易トイレが備蓄され、試供品的に配布されていることは良いことですが、それをどう使うかを知らないで、段ボールトイレを持ち出す考え方になってしまいます。皆さんが適切な使い方を知っていることは大事だと思いますので、そのようなことの啓蒙が必要だと思います。

会長：本当にそうだなと思いながら聞いておりました。学校の中で子供たちがしっかりと学んでいくということが大事だと思うので、トイレの使い方について豊里学園や大穂学園で実施したのはすごく良かったと思います。実際に起こることを想定した学びというのが、もう少し学校の中できちんと位置付けられないと駄目なのではないかと感じています。

あとは実際に行動ができるようにしていかななくてはと思います。

宮内指導主事、このようなことがつくばスタイル科の中に項目として入っているのか、入っていないとしたら、今後どのように考えていけばいいのか、何かありましたら。

宮内委員：学び推進課宮内です。現在のつくばスタイル科の単元プランの中には、そこまで具体的に体験を想定したものは入っていないと思います。

ですので、今後実施していくとすると学校独自のサテライト単元のようなものとして、そういった体験を入れていく、もしくは、今までやってきた避難訓練の中であったり防災月間のようなところにつなげて、簡易トイレなど防災の資材を使用する機会を設けたり、その場面を何かしらの教科、一番はつくばスタイル科がわかりやすいとは思いますが、そこに関連付けていくということが考えられるかなと思います。実際にやってみて初めて身につくものというのは非常にあると思いますので、有効な取組になるのかなと考えます。

会長：柳下校長先生どうでしょう。

柳下委員：今のお話を伺って、感染拡大時期における3年間に全く実践的な活動ができなかったということが大きく、先ほどから話題になっていた防災倉庫もその間1回も見なかった職員がほとんどになってしまいました。

そこからの反省で、まずつくばスタイル科で子供たちに学ばせる前に、職員が知るということの研修が必要で、竹園学園全体としてまず防災に関する会議を改めて本年度中にもう一度行い、その中で防災倉庫についての説明や、さらには今後どのように学んでいけばいいのかというような道筋を本年度中につけようと考えていま

した。

その上で来年度に向けて、つくばスタイル科の中で子供たちが相互に学ぶと。竹園西小学校で言えば3学年がその学年に相当します。例えば1年生のうちには何が必要なのか、そして3年生の段階で防災バックの中身を考えるに当たって、トイレの凝固剤を入れておくなどというような指導が入ってくるのが、やりやすいのかなと思います。

その時に資材の使い方まで教えていただく。用意してあるから安心するのではなくて、どういうふうにするものなのかということを実演していただきながら、学んでいく機会を作るといいのかなと思いました。

小学生においても、体験がとても重要だと思います。実際に体験することを計画していきたいと思いました。

会長：ありがとうございます。地域の方々の力が大事だということを強く感じますが、局長からコミュニティスクールで防災について実施していくことはできないかというお話があったかと思います。局長からその点についてはいかがでしょうか。

吉沼委員：担当課長もおりますが、先に申し上げますと、いろいろとお話を伺って、学校としてできることというのがある程度決まってくると思います。それを決めることで子供たちに何を教えていくかというのは大切なところだと思いますが、学校で委ねられるところと、学校でもなかなかこれ以上は、というところが出てくると思えるんですね。お話のなかでいろいろな課題がありましたが、地域の人を借りるということも大切なことだと思います。コミュニティスクールという1つのテーマを決めて、各学校、各学園で動き出したところでもあるので、是非とも防災もその中の1つのテーマとして捉えていただいて、地域の方も巻き込んで話し合っただけことが大切なのかなと思いました。

これは局長としての答えではないのかもしれませんが、以前に大穂学園の中で私も一市民として、くすのき会という任意団体の活動に参加していました。いろいろな人と活動することで、これまで知らなかった地域の力を知ることが出来たことが非

常に良かったので、まさにそういう場所を、コミュニティスクールを議論するなかで持つことができれば非常に良い方向に行くと思っていますので、学校としてできるところを少し整理した中で、地域の方にはどういったことがお願いできるのかな、或いは地域の方にどのようなことをしていただけたら学校としても助かるのかなというあたりを整理していくことも大切かなと思いました。

会長：生涯学習推進課長はいかがでしょう。

澤頭委員：生涯学習推進課です。

局長のお話の通りのことだと思っております、コミュニティスクールの熟議に参加しております、そのような思いを肌で感じさせていただいています。

地域の方も、学校の求めに応じてその力を提供する準備が整いつつあると思いますので、具体的な方策や、時期などを詰める段階に移ってもいいのではないかなと感じております。

会長：学校だけで収束するところではないと思いますので、地域の力を借りられるように学校が働きかけもしていかなければいけないというところで、学校の役割がすごく大きくなります。

一人ひとりが備えをしておくということもすごく大事になってくると思いますし、備品が防災倉庫に用意されているということも大事ですけれども、自分の家でも用意しておくなど、そういったことも大事になると思います。

学校からは子供たちの学びとして実施するという以外に方法はないのかというのが、例えば防災バックの取組を3年生で実施しますが、その中身、用意するものについて市民全体の話として広まっていくのかどうかというのが、非常に大事なのではと思います。皆さんはそれぞれ家庭の人でもあるので、家庭ではマイ防災バックや普段備えていることなどどのようにお考えでしょうか。

久保田次長いかがですか。

久保田委員：我が家の話を申し上げますと、東日本大震災が契機になりました。

私自身が帰宅困難者で家に戻れない時期があったので、その時に家族でいろいろ話

をしたところでは。

それ以前は防災という意識があまりなかったので備蓄もしていませんでしたが、それを機にある程度の備蓄を考えるようになりましたし、トイレの問題についても簡易トイレを準備しております。

ただ、どうしても日中に地震が発生した時に、家族がそれぞれ別の場所にいる可能性が非常に高いので、そこでどのように避難をするのかと。最善のところに避難するという形になると思いますが、そういったところはやはり各自がその時の状況に応じて行動するしかありません。我が家は幸いにして子供たちもある程度の年齢になりましたので、各自で動いていけると考えていますが、そのようなことは災害が起こるたびに話しているところです。

会長：ありがとうございます。

防災意識を高めるという点で、学校ができることというのがあるのかなと思いますが、そのことについて危機管理課から何かありますか。

登坂委員：このような備えをして欲しいということを広めていくという意味では、教育長のおっしゃる通りだと思ひまして、私の子供がマイ防災バックを作成した際に、それをひとつのきっかけに、家族間で防災の話をできたかなと思っております。防災バッグというのは各家庭で当然違ってくると思ひますし、必要なものを考えるきっかけになるということがひとつと、その答えはいくつもあつて、家庭ごとに答えがあるのかなと思ひますので、その家庭に応じたマイ防災バックを考える、そのような防災への取組の普及というのが一緒にできればいいのかなと思ひます。

例えば学校で危機管理課と一緒に、防災バッグ作成の答え合わせのところで、こういうものもいいということを示せば、一番いいのかなと思ひます。

もし可能であれば来年度以降、一緒に検討させていただければと思ひます。

会長：ありがとうございます。局長どうぞ。

吉沼委員：危機管理課で出前授業のノウハウを持っていると思ひますが、出前授業の紹介をしてもらえると学校としてもありがたいと思ひるので、紹介をお願いしま

す。

登坂委員：柳下先生からも先ほどお話ありましたが、3月に私ども危機管理課で学校の方に行かせていただいて、出前講座をさせていただく予定になってございます。出前講座は、保護者向けの学校防災倉庫の話もありますし、またお子さん向けのコンテンツを持っております。

先ほどからお話があるトイレの使い方も、長屋先生に御協力いただきながら動画を作ってYouTubeで公開させていただいております。小学校であれば小学校、中学校であれば中学校の生徒さんに向けたコンテンツで出前講座を実施できるようにしておりますので、危機管理課にお声掛けをいただければ、御協力できると思っております。

会長：それは一覧になって、学校に周知などはされていますか。

登坂委員：周知に関しては、次年度の学校の先生向けのコンテンツがあり、そのうちのつくばスタイル科の部分で、危機管理課の取組を記載する準備を進めているところでございます。

会長：ありがとうございます。つくばスタイル科でそのようになると良いと思います。長屋先生、どうぞ。

長屋先生：今のお話を聞いて、少し気になったことを申し上げます。議論の入り口がトイレの話題だったと思うので、その部分のお話を差し上げると、こういう言い方は良くないかもしれませんが、今のやり方をしていたらおそらく10年後も一緒だなと思いました。

家庭の備えの話もありましたが、トイレについて災害時にも最低限使い続けられるようにというところを目指すのであれば、毎年ある学年の特定の時期にトイレの指導を10年やり続ける様な取り組みが必要だと思います。一定の指導などを継続的に続けないと、10年後になっても同じことを言っているのではないかなと思います。何より東日本大震災のときから10年以上が経ったのに、我々は未だにトイレのことで悩んで、何も変わっていません。このままだと10年経っても同じではな

いかと心配になります。

防災のことを考えると、いろいろな問題、課題が出てきてしまいます。その全部をすぐに解決するのはなかなか難しいです。例えばトイレにターゲットを絞って取り組みを進めるのであれば、非常に良いことだと思います。交通安全教室のごとく、毎年、ある学年とか全学年に指導して、年に1回でいいと思うので、災害用トイレがどのような仕組みであることを教えて、それをお家でもやってみようとして、それを10年続けると、10年後は今の議論はなくなっているのではないかなと思います。ちなみに、危機管理課が私と災害用トイレのyoutube動画を作ったりしているというお話がありましたが、それは数年前に危機管理課につくば市の防災のポイントは何ですかと伺った際、家の耐震化と家具の固定、災害用トイレの備蓄だというお話があったので、私も授業等でお話をするときにはそれらの要素を入れるようにしています。

すぐに防災力は向上しないと思います。しかし、今から10年後ぐらいを見て取り組みをしないと変わっていかないと思います。

会長：貴重な御意見本当にありがとうございます。

本当に大事だよねというので終わってしまっただけではいけないというところで、必ずやるべきことをいつやるかということも含めて整理をしなければいけないし、この委員会を開催している意味が薄れてしまうのかなというふうに思いますので、教育局でその辺を整理して、どの時期に何をやるか、つくばスタイル科の中でこれだけはやりたいというものをきちっと入れながら、学校で徹底できるように、今後進めていければと思いますので、校長会の方にも御協力の方よろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございました。

引渡しからトイレの話になって、避難のための準備というのも網羅的に話してしまいましたけれども、今後本当に整理してできるだけ徹底できるようにしていきたいと思ひますし、そのための委員会でありたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

それでは(4)の大地震を想定したショート防災訓練の実施について、まず事務局の方で説明をお願いします。

事務局：地震を想定したショート防災訓練の実施についてご説明をいたします。資料5を御覧ください。

こちらは6月28日に開催された第1回の防災推進委員会で、既存の防災訓練の流れの整理についてと、そこにある問題提起がございまして、いわゆる既存の防災訓練をシナリオ型の防災訓練と申しますが、放送が入って、教室等で机の下に隠れて収まって、校庭に避難して、という定型型の訓練について、訓練の基礎としては重要ですが、その訓練だけで良いのかという様々な問題提起がなされました。

その第1回で出されたいろいろな御意見を踏まえまして、私ども防災推進委員会で、事前の告知を最小限にとどめ、いわゆる抜き打ちに近いような避難訓練を行おうということで、吾妻小学校と沼崎小学校の2校の御協力をいただいて、モデル的にそのような訓練を実施した報告になります。

訓練の実施方法についてご説明しますと、訓練はそれぞれの学校で2回行っております。

そして、1回目はイントロダクションという位置付けで、教室で過ごしている時間での地震の発生を想定して、授業中に地震が発生しましたということで、放送で通知します。しかしながら、地震の訓練があるよということだけお伝えして、あまり詳細な時間まで告知しないというかたちですね。

そして2回目は、教室外で過ごしている時間の地震発生を想定して、業間休み等に地震発生を放送で通知するという形をとらせていただきました。

既存の地震の訓練では校庭への避難があったり、整列したりなどありますが、いかに行動がとれるかというところに焦点を置くので、訓練開始から1分後に揺れが収まったということで訓練を終了し、元の活動にそのまま戻っていただくという訓練です。

この訓練を行う際に、最小限の告知というかたちのため児童生徒が慌てて駆け出し

てしまって事故などが起きないように、学校の先生方が留意してくださいました。
また訓練に際して、ある程度、避難の行動についての指導を行っております。

日付については両校とも1月に実施しています。

なお、沼崎小学校については、こちらの最小限の告知による訓練を、私どもがお話をする前から実施したことがあるということでした。

この訓練結果について取りまとめ、フィードバックを行っておりまして、訓練は私どもと長屋先生で視察を行って、それぞれの小学校の5・6年生を対象にアンケートを実施しております。

アンケートの結果が2枚目にございまして、設問としましては、主に訓練時にどこにいたか、その時にどんな行動をとったか、学校生活でどんな場面に避難訓練が必要だと思いませんか、という設問のアンケートを実施しました。

いずれの設問についても、学校の違いによる明確な差異は認められず、概ね同じような傾向になりました。

1回目の地震の訓練と同様、2回目の業界休み訓練においても、特に声かけがなくても、机の下に入る行動を自ら取ることができておりまして、体育館やグラウンドにいた多くの児童については、それぞれの中央に集まって姿勢を低くしたという回答が目立ちました。集まって身体をかがめたのですが、周辺の様子に注意したとの記載はあまり見られませんでした。

廊下にいた児童については、ガラス等や危ないものから離れて、何も無いところでしゃがんだ、身を守ったという、周辺の様子等に注意しながら身を守る行動をとっていたことがアンケートから伺えました。

続いて、学校生活のどんな場面での避難訓練が必要だと思うかとの設問に対しては、給食の時間という答える生徒が多く、給食中は、机の上にたくさん物が載っているという意見がありました。

登下校中や、或いは特別教室での活動中、掃除の時間など、特定の教室外の活動について挙げられました。

また、先生からも御意見を頂戴しておりまして、吾妻小学校からは、これまでの訓練の積み重ねもあって、特段の指示をすることなく、身を守る姿勢を自然と取ることができていたという御意見と、体育館等で地震が発生したときの動きについては、改善の余地があるということも挙げていただいております。

身を守るためのポイントを整理して伝えたいということでもいただいております、また、大人の目が届かないような時間に、地震が発生した場合についても、見守り方を伝えておく必要があるといただきました。

沼崎小学校からは、同じく机の下に身を守る活動がとれていたという、教室内の児童の行動についていただいておりますのと、11月の訓練と比較して、すべての児童が校庭の中央に移動して、身を守る姿勢をとっていたということで、以前の訓練よりも、整然とした行動がとれているという御意見をいただきました。

また、教室で適切な行動が取れていない児童がいたなど、いくつか課題が確認されたということで、こちらについても挙げていただいております。

実際の視察で見られた様子は、いずれの学校でも周囲の安全を確認したり、姿勢を低くして動かないという行動がとれておりました。

そして、沼崎小学校と吾妻小学校では、以前に訓練を実施した沼崎小学校の方が、比較的児童の動きが整然としておりましたので、こういった訓練の積み重ねも重要かと認識しました。

総括としましては、時間の特定や詳細な告知を行わず抜き打ちの場面を想定した訓練は、教職員の方も、児童生徒の方も、その重要性や必要性は高いということで、アンケートや御意見を頂戴しております。

先に挙げたいくつかの留意点はあるものの、訓練そのものは比較的短時間で実施可能であるので、定期的に繰り返し実施することも可能です。

防災推進委員会としては、今回の吾妻小学校や沼崎小学校での訓練のときの要綱等、関連資料を活用して他の学校でも使えるようなマニュアルを作成し、水平展開を行って、危機管理や防災意識の向上にさらにつなげていきたいと考えておりま

す。報告としては以上になります。

会長：ありがとうございました。

このような告知をあまりしない避難訓練ということで観察をしていただいたということで、長屋先生も御覧なっていたいただいたということで、その時にお気づきのこととか、また感想などあればお伺いしたいと思いますが、いかがですか。

長屋先生：概ね報告のとおりですが、先ほど私が申し上げた、小さなことでいいから積み重ねていきましょう、ということで御提案をしたものの1つです。6月28日の委員会のときに、放送が使えるのかとか、様々な意見が出たので簡単なことから始めたらどうですかということを経済総務課に提案し、学校に御協力をいただいた、という流れです。

実際に実施して分かったこととして我々の認識ですがそれほど時間をかけずにできていたというのは事実です。もちろん、それぞれの学校の先生方の多大な児童への指導や配慮があって実施できたわけですが、配慮や指導の部分はある程度定型化すれば繰り返し使えるので、定型化することで水平展開は進めやすいのではないかと思います。

これを繰り返していけば地震時に児童が自分自身のとっさの判断で最低限のことができるようになるのではないかと思います。

会長：ありがとうございます。茂在先生、どうですか。このような訓練は実施しているのでしょうか。

茂在委員：今年度は、日にちはこの日、ただ時間は分からないということで、子供たちに詳細な時間は伝えずに訓練を実施しました。

子供たちも非常に落ち着いていて、教員の動きでそろそろかなというような、そういうこともあったようですが、1回実施する価値があると思いました。

1回だけでなく、長屋先生からあったようにこれを継続していくことが大切かなというのは職員の間でも話題にはなりました。以上です。

会長：実施してよかったということでしたね。定期的に各学校でも取り入れるような、そのようなかたちをこれから推奨していくように事務局から情報発信できればと思いますので、よろしくお願いします。

議題としては終わったんですけれども、今までの話し合いで気になることや、自分の担当としてのその課題感など、そういうものがもしありましたら、ここでお話いただいて共通理解を図ったり、対策を考えたりできればと思いますが、いかがでしょうか。大丈夫でしょうか。長屋先生お願いします

長屋先生：防災手帳作成事業について予算の話題になっていましたが、防災に関わる取組に対する助成事業として様々なものがあります。つくば市教育委員会ではそのようなものを活用することは可能でしょうか。

久保田委員：ありがとうございます。おそらく補助してくれる団体側の取り決めの問題もあると思うんですね。例えば自治体が対象になるのかならないか。そのようなものもあると思いますので、おそらく学校は対象になるような気がしますが、教育委員会や市として申し込むと対象にならない可能性もあるかとは思っています。

仮に対象になるのであれば、我々も特定財源は必要だと思っていますので、そういったものに応募するのもひとつかなと思います。

ただ、頂いたものをそのまま使えるというのは市の会計には実はなくて、歳入を計上して、議会にも御報告して審議していただくという必要があるので、一連のプロセスは必要になりますけれども、事業として自治体が対象になるのであれば、そういったものも利用するのもひとつかなと思います。

会長：そうですね。今度ご紹介いただいてその中身を検討させていただければ大変ありがたいと思いますので、よろしくお願いします。

ありがとうございます。他には何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。長時間ありがとうございました。では事務局の方にお返ししたいと思います。

事務局：会長、どうもありがとうございました。

以上をもちまして第2回つくば市学校防災推進委員会を閉会いたします。

本日はどうもありがとうございました。

以上

令和5年度
第2回つくば市学校防災推進委員会 次第

日 時 : 令和6年(2024年)2月22日(木)
午後3時30分～
場 所 : 庁舎2階 防災会議室3

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

- (1) 令和5年度(2023年度)の事業報告(学校防災推進委員会)について
【資料1】
- (2) 学校防災手帳の概要について【資料2】
- (3) 令和5年度(2023年度)学校防災事業報告について(各学園・各学校)
【資料3】 【資料4】
- (4) 地震を想定したショート防災訓練の実施について【資料5】

4 閉 会

○令和 5 年度（2023年度）の事業報告（学校防災推進委員会）

- 1 第 1 回学校防災推進委員会（令和 5 年 6 月 28 日開催）
内 容：令和 4 年度（2022年度）の事業内容について
令和 5 年度（2023年度）の事業計画について

第 2 回学校防災推進委員会（令和 6 年 2 月 22 日開催）
内 容：令和 5 年度（2023年度）の事業報告
- 2 学校防災研修会（令和 5 年 12 月 5 日開催）
国立研究開発法人 防災科学技術研究所
池田真幸様による講演
演題 「気象災害と学校防災」
参加者 学校関係者 保護者等 74アカウント
- 3 学校防災手帳作成
秀峰筑波義務教育学校、二の宮小学校、高崎学園（高崎中学校・荃崎第一小学校）で作成
- 4 その他
防災訓練視察（視察場所：沼崎小学校・吾妻小学校）
事前の予告がない避難訓練を各校で 2 回ずつ実施した。
1 回目は教室での授業中、2 回目は業間休み等の児童生徒が自由に行動している時間に実施し、防災意識の向上を図った。

つくば市学校防災手帳作成の概要について

1 目的

携帯できる防災手帳を児童・生徒に提供し、日常生活や授業に活用してもらうことで、児童・生徒及び保護者の自助・共助の意識の向上に資する。

2 事業概要

ハザードマップ等の行政機関が発行している情報と、つくばスタイル科の防災単元（まち探検等の調べ学習）での児童の学習成果を組み合わせることで携帯できる防災手帳を作成するもの。

3 今年度の作成校

秀峰筑波義務教育学校、二の宮小学校、高崎学園（高崎中学校・荃崎第一小学校）

4 これまでの作成校

平成 30 年度：大曾根小学校、葛城小学校、春日学園義務教育学校

令和元年度：荃崎学園（第二小・第三小）、栄小学校、竹園東小学校

令和 2 年度：上郷小学校、東小学校、竹園西小学校（竹園学園版として再編集）

令和 3 年度：谷田部小学校、沼崎小学校、桜並木学園（並木小学校、桜南小学校）

令和 4 年度：学園の森義務教育学校、栗原小学校、前野小学校、柳橋小学校

5 その他

(1) 国土交通省国土政策総合研究所の協力の下、作成。

(2) 掲載する情報については、吾妻学園防災手帳やつくば市総合防災ブック等を参考に作成。

(3) 110 番の家は、各学校へ照会をかけ、PTA 等作成のデータを活用。

(4) AED は、「茨城県 AED 設置施設登録制度」に登録してある施設を掲載。

令和5年度(2023年度)の事業報告(各学園・各学校の取組)

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
①大穂学園	大穂学園	令和5年5月	学園合同引渡し訓練 つくば市内で大地震が発生したという想定のもと、小学校、中学校が連携して保護者へ安全な引渡しのための訓練を行う。	児童生徒 1,441名 保護者 1,210名 合計 2,651名	つくば北消防署員 筑穂交番署員
		令和5年5月	地域防災連絡会 前段引渡し訓練を参観していただき、助言指導を仰ぐとともに、学校防災施設の確認等を行う。	地域防災連絡員 57名	つくば北消防署員 筑穂交番署員
		令和5年8月	地域防災会議 講師の先生をお招きし、避難時における心構えの教授や簡易トイレ設置訓練を行う。	地域防災連絡員 75名	防災士 小野泰宏 様 つくば市危機管理課職員
	大穂中学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(大地震発生想定)
		令和5年4月	教職員研修	教職員	アレルギー教職員研修
		令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	学園合同引渡し訓練
		令和5年8月	教職員研修	教職員	心肺蘇生法研修

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
①大穂学園	大穂中学校	令和5年10月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(大地震から火災発生)
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練
	大曽根小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難経路の確認 火災が発生したという想定のもとでの訓練
		令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	学園合同引渡し訓練
		令和5年6月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	6年生	国語「防災ポスター」を作り、防災について呼びかけよう
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	防災マップを、学習者用端末を用いて作成
		令和5年12月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	3年生	マイ防災バックをつくろう
		令和6年1月	授業・訓練時以外での防災に係る取組	全校生徒	能登半島地震にふれ、募金活動を展開

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
①大穂学園	前野小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	地震・火災想定訓練（避難経路確認）
		令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	大地震想定学園連携引渡し訓練。 地域防災連絡員の方々と連携協議。
		令和5年8月	授業・訓練時以外での防災に係る取組	教職員	心肺蘇生法（消防士を講師として招聘）
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	マイ防災バックを学習者用端末を用いて作成
		令和6年1月	つくばスタイル科（その他の授業・取組）	教職員・全校生徒	能登での震災を受け、震災に対する備えや避難の仕方の再確認を行った。
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	不審者対応訓練（警察署との連携）
		令和6年2月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	防災マップを学習者用端末を用いてクラウド上で作成

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
①大穂学園	要小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災想定・避難経路確認
		令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	地域防災連絡員の方々に引渡し訓練の様子を参観していただいた。
		令和5年7月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	竜巻を想定（動画活用した避難訓練）
		令和5年8月	授業・訓練時以外での防災に係る取組	教職員	心肺蘇生法（消防士を講師として招聘）
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年12月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	不審者対応訓練（警察署との連携）
		令和6年1月	つくばスタイル科（その他の授業・取組）	教職員・全校生徒	能登での震災を受け、震災に対する備えや避難の仕方の再確認を行った。
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	防災マップを、学習者用端末を用いて作成
		令和6年2月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	マイ防災バックをつくろう

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
①大穂学園	吉沼小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(火災) 校内で火災が発生したことを想定し、避難経路の確認、対処訓練を実施した。
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	つくば市シェイクアウト訓練、避難訓練(地震) 校内で地震が発生したことを想定し、対処訓練を行った。
		令和5年12月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	5年生児童と保護者が地区ごとに危険個所を確認し、防災マップを作成した。
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(竜巻) 竜巻が発生したことを想定し、校内の避難場所や避難の仕方について対処訓練を行った。
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	災害時の備えとしての防災バッグづくりを行うことで、避難場所や食料の備蓄等災害時の対応への関心を高めた。

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
②豊里学園	豊里学園	令和5年11月	学園防災連絡会議	合計 30名	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
	豊里中学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第2回(シェイクアウト訓練)
		令和5年10月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	8年生	防災について
	上郷小学校	令和5年4月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	引渡し訓練
		令和5年8月	PTA・学校サポーター組織の学校防災に係る取組	6年生	災害時の食料確保の内容を扱うキャンプ
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震想定
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	4年生	他校の児童との意見交流
		令和5年11月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災想定
		令和5年11月	PTA・学校サポーター組織の学校防災に係る取組	6年生	水害想定
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者想定

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
②豊里学園	今鹿島小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	竜巻・Jアラート対応避難訓練
		令和5年5月	PTA・学校サポーター組織の学校防災に係る取組	その他	通学路安全点検
		令和5年6月	その他の学校防災に係る取組	その他	地震対応避難訓練+引渡し訓練
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震対応シェイクアウト訓練
		令和5年12月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	4年生	防災設備・防災倉庫見学 学園内交流
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災対応避難訓練・通報訓練・消火訓練・講話(市中央消防署豊里分署)
②豊里学園	沼崎小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校児童	火災時対応
		令和5年6月	つくばスタイル科 防災手帳	1年生	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和5年9月	シェイクアウト訓練	教職員・全校児童	
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災バッグ	4年生	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災マップ作成	6年生	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和5年11月	ショート避難訓練(1回)	教職員・全校児童	
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校児童	不審者対応
		令和6年1月	ショート避難訓練(2回)	教職員・全校児童	教育総務課との協力により実施

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
③輝翔学園	輝翔学園	令和5年9月	地域防災連絡会議	学園の教職員代表者、区長、PTA本部、地域防災関係者 30名	つくば市長公室危機管理課職員
	谷田部中学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災想定
		令和5年6月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	地震想定引渡し訓練
		令和5年7月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	8年生	防災ハンドブック作成
		令和5年10月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者想定
		令和6年3月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災想定
	谷田部小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難場所と避難経路の確認
		令和5年6月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	教職員・全校生徒・地域の方々	引渡し訓練
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震対応(シェイクアウト訓練)
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年2月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災対応(煙体験、消防車見学)
		令和6年2月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
③輝翔学園	谷田部南小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難場所、避難経路の確認
		令和5年6月	避難訓練(引渡し訓練を含む)	教職員・全校生徒・保護者	非常時の引渡し訓練
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練、地震対応
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	防災バックの作成
		令和5年11月	避難訓練(引渡し訓練を含まない) 幼稚園との合同	小・幼教職員・全校児童・全幼稚園児	竜巻の後の火災対応(南消防署との連携)
		令和5年1月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	防災マップの作成
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない) 幼稚園との合同	小・幼教職員・全校児童・全幼稚園児	不審者対応(つくば中央警察署生活安全課との連携)
	柳橋小学校	令和5年6月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
令和6年2月		つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生		

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
④高山学園	高山学園	令和5年6月	学園引渡し訓練 学園内の小中学校で連携して、非常災害時の引渡し訓練を行なう	児童・生徒・保護者・学校教職員 合計 1,800名	
	高山中学校	随時	教職員研修	教職員	防災に関する研修(随時)
		令和5年6月	その他の学校防災に係る取組	その他	高山学園引渡し訓練
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練
	真瀬小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回(火災)
		令和5年6月	避難訓練(引渡し訓練)	教職員・全校生徒・保護者	第2回(地震)
		令和5年6月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第3回(竜巻)
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	4年生	
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災マップ作成	3年生	
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第4回(不審者)
		令和6年3月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
④高山学園	島名小学校	令和5年5月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校児童	火災を想定
		令和5年6月	避難訓練（引渡し訓練）	教職員・全校児童・保護者	
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校児童	シェイクアウト訓練
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年12月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校児童	竜巻を想定
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校児童	不審者侵入を想定
	香取台小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校児童	火災を想定
		令和5年6月	避難訓練（引渡し訓練）	教職員・全校児童・保護者	地震を想定
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校児童	シェイクアウト訓練
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年12月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校児童	竜巻を想定
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校児童	不審者侵入を想定

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑤光輝学園	光輝学園	令和5年5月	学園合同引渡し訓練 光輝学園と手代木南幼稚園が連携して引渡し訓練を行うことで、学園の児童生徒・園児の安全確保と地域の防災意識の向上及び保護者への引渡し方法を確認する場とする。	手代木中学校、葛城小学校、手代木南小学校、松代小学校、手代木南幼稚園	
		令和5年11月	学校防災連絡会議 手代木南小学校体育館で対面で開催し、危機管理課の講座を聞いたり、防災倉庫格納物品確認したり、防災に係る情報交換を行った。	学校関係者、地域関係者、消防団等	つくば市危機管理課職員
	手代木中学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第1回 地震による避難訓練
		令和5年11月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第2回 火災による避難訓練
		令和5年12月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第3回 不審者による避難訓練
	手代木南小学校	令和5年5月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	地震・火災
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	地震・火災
		令和6年2月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	不審者
		令和6年2月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和6年2月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑤光輝学園	松代小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難経路確認
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練(無告知)
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者侵入時避難訓練
		令和6年2月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	竜巻時避難訓練
	葛城小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回地震・火災避難訓練(各学年経路確認を含む)
		令和5年5月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	光輝学園引渡し訓練(地震避難訓練含む)
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年10月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	3年生	社会科との横断的学習
		令和5年11月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	5年生	社会科との横断的学習
		令和5年11月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	光輝学園学校防災連絡会議
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第2回竜巻避難訓練
		令和5年1月	防災教室	地域の方々	4年生対象、葛城版コミュニティ・スクール、保護者
		令和5年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第3回不審者避難訓練

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑥洞峰学園	洞峰学園	令和5年6月	洞峰学園合同引渡し訓練 学園の小中学校で連携を図りながら、地震を想定した引渡し訓練を行う。	教職員・学園全児童生徒・保護者	
	谷田部東中学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第1回（地震を想定）
		令和5年5月	つくばスタイル科（その他の授業・取組）	8年生	防災に関する学習、グループ発表
		令和5年6月	引渡し訓練	教職員・全校生徒	洞峰学園小中学校、近隣幼稚園合同（地震を想定）
		令和5年8月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第2回（不審者侵入を想定） 警察の方
		令和5年8月	その他の学校防災に係る取組	地域の方々	P T A 主催による防災キャンプ
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第3回（竜巻を想定）
		令和5年10月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒・地域の方々	第4回（火災を想定） 消防署の方

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑥洞峰学園	小野川小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年7月	教職員研修	教職員・地域の方々	
		令和5年7月	防災教室	4年生	
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
	二の宮小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災を想定
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	つくば警察署生活安全課の植野様を招聘し、不審者対応の避難訓練を実施した。

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑥洞峰学園	東小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第1回 地震
		令和5年6月	その他の学校防災に係る取組	教職員・全校生徒・地域の方々	洞峰学園引渡し訓練
		令和5年6月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	第2回 不審者侵入
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年7月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）		第3回 火事

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑦桜学園	桜学園	令和5年5月	桜学園引渡し訓練 地震を想定した避難訓練。保護者は、極力徒歩での迎えをお願いし、兄弟が中学校にいる場合は、小学校で合流し下校する。	児童・生徒・保護者 合計380名	
		令和5年5月	第1回桜学園学校防災連絡会議 本年度の活動計画・桜学園防災連絡会議役員紹介	教職員・PTA会長 合計18名	
		令和5年8月	第2回桜学園学校防災連絡会議(オンライン) 「避難所生活を考える」の題目で講演会を実施した。	教職員・PTA・知己住民 合計140名	立教大学教授 長坂俊成様
	桜中学校	令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災対応
		令和5年10月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	9年生	避難所設営
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災マップ作成	7年生	マイタイムライン作成
	栗原小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回
		令和5年6月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第2回
		令和5年6月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	3年生	
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	教職員・全校生徒	
		令和6年2月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	5年生	県防災課とのマイタイムライン作成授業

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑦桜学園	九重小学校	令和5年6月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回
		令和5年9月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	異学年交流	
		令和5年9月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	教職員・全校生徒	第2回
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
	栄小学校	令和5年6月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	5年生	県防災課とのマイタイムライン作成授業
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年9月	つくばスタイル科 講話等の聴講	3年生	防災科学研究所講師招聘
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	竜巻対応
		令和6年2月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	6年生	心肺蘇生法研修

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑧竹園学園	竹園学園	令和5年6月	竹園学園防災訓練(引渡し訓練) 地震を想定し、学園内3校引渡し訓練を実施。兄弟姉妹がいる場合は、中学校から引渡しを実施。	学園児童生徒、教職員、保護者 合計4,000名	
		令和6年3月	竹園学園学校防災連絡会議 災害発生時の学校・地区の対応について意見交換を行う。その後、学園内で情報の共有を行う。	教職員、PTA本部役員、防災士、主任児童委員、区長、危機管理課 合計30名	防災士 今井 健之 様
	竹園東中学校	令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(地震を想定したシェイクアウト訓練)
		令和5年11月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(竜巻を想定した訓練)
		令和6年2月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	避難訓練(不審者侵入を想定した訓練)
	竹園西小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	
		令和5年10月	つくばスタイル科 講話等の聴講	3年生	防災士からの講話
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑧竹園学園	竹園東小学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第1回
		令和5年6月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	6年生	国語科 防災ポスター作成時に地域について考えた
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第3回
		令和5年9月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	4年生	社会科でハザードマップについて考えた
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年10月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年1月	つくばスタイル科以外での防災に係る授業	3年生	社会科
		令和6年2月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	第4回
		令和6年3月	その他の学校防災に係る取組	教職員・地域の方々	竹園学園学校防災連絡会議

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑨桜並木学園	桜並木学園	令和5年5月	桜並木学園引渡し訓練 非常災害における保護者への引渡しが、確実にできるようにする	桜並木学園教職員、児童生徒、保護者 合計約2,000名	
		令和6年1月	桜並木学園学校地域防災連絡会 地域の防災対策について考える	桜並木学園教職員、PTA、学校評議員、区長、民生 児童委員、児童館代表、近隣幼稚園 合計29名	防災科学技術研究所 災害過程研究部門 池田 真幸 様
	並木中学校	令和5年4月	教職員研修	教職員	避難経路確認
		令和5年5月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年8月	教職員研修	教職員	救命救急講習
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和6年2月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	消防署員講話、消火器体験
		令和6年2月	つくばスタイル科（その他の授業・取組）	7年生	災害時に自分たちにはできることはなんだろう！（全6時間）
		令和6年2月	その他の学校防災に係る取組	教職員	防火器具の点検・整備

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑨桜並木学園	並木小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	避難経路の確認
		令和5年5月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災対応避難訓練
		令和5年11月	その他の研修、講話等	教職員	警察署の方による避難訓練に向けた教員研修（さすまたの使い方）
		令和5年11月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	不審者対応避難訓練
		令和5年12月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	4年生	
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年2月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
⑨桜並木学園	桜南小学校	令和5年5月	避難訓練	教職員・全校生徒	引渡し訓練に合わせて、地震想定訓練を行った。
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災を想定した訓練
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年12月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	不審者対応想定訓練

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑩吾妻学園	吾妻学園	令和5年9月	防災キャンプ 災害が起こった場合を想定しての防災教育活動	合計50名	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和6年1月	防災時の炊き出し訓練 避難所になった時の炊き出し訓練	合計70名	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
	吾妻中学校	令和5年8月	教職員研修	教職員	救命救急講習(講師:つくば市消防署)
		令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	地震想定訓練(シェイクアウト訓練)
		令和6年2月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災想定避難訓練、消火訓練、講話(講師:つくば市消防署)
		令和6年3月	つくばスタイル科 講話等の聴講	8年生	学校避難所開設シミュレーション(国土交通省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様)
	吾妻小学校	令和5年9月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	Jアラート 竜巻に対応した避難訓練
		令和5年10月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災を想定した訓練
		令和5年11月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応想定訓練
		令和6年1月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	ショート避難訓練

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑪ 茎崎学園	茎崎学園	令和5年5月	竜巻に対応した小中合同避難訓練 竜巻発生と、それに伴う安全な場所へ避難をし、児童・生徒を下校させた。3校で連絡を取り合い、引渡し方法を判断し、引渡しを行った。	児童・生徒、教職員、保護者	
		令和5年12月	茎崎学園学校防災連絡会議 講師を招聘し、災害・防災の意識を高める協議に資する、近年の地震をはじめとする災害によるインフラ施設等の被災事例やそれを踏まえた災害及び防災についての基礎知識を学んだ。	消防署分署長、CS推進委員、区長・民生委員、青少年相談員、教職員、保護者	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和6年2月	第3回CS推進委員会 熟議において「防災」を柱に令和6年度の茎崎学園の活動について協議する。	茎崎学園CS推進委員	
	茎崎中学校	令和5年5月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	竜巻を想定した訓練
		令和5年5月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災を想定した訓練
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和6年2月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	不審者対応想定訓練
	茎崎第二小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	地震
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	
		令和5年12月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災・消火器訓練・煙体験

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑪ 荃崎学園	荃崎第三小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災時の避難経路確認
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	
		令和5年12月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	土砂災害避難訓練
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑫高崎学園	高崎学園	令和5年6月	高崎学園合同引渡し訓練 大規模災害(地震)を想定した学園内の幼小中合同の引渡し訓練	幼児、児童、生徒、教職員、保護者 合計約1,300名	暴風雨が予想されたため中止(各校で避難訓練のみ実施)
		令和5年7月	高崎学園防災連絡会議 今年度の避難訓練の検証と、防災に関する情報交換や高崎地区家庭用掲示物に関する意見交換・防災倉庫点検	各学校防災会議委員、PTA代表、区長及び民生委員の代表、地域の防災担当者、茎崎交番、消防署員等 約30名	
		令和5年4月～11月	高崎学園 防災手帳作成 防災マップづくりを通して、防災に対する意識の高揚を図る。	茎崎第一小 第5学年 児童100名	
	高崎中学校	令和5年4月	避難所で私たちにできることは! 災害時に自分たちができることを考え、発信することを通して、地域の一員として貢献する意識を高める	高崎中学校 第9学年 生徒117名	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和5年5月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒・地域の方々	火災を想定し、避難経路の確認。茎崎消防署から講師を招き、初期消火訓練の実施。
		令和5年9月	教職員研修	教職員	危機管理マニュアルについて
		令和5年10月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	竜巻を想定し、教室でバリゲードをつくり避難方法の確認。
		令和5年11月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	9年生	「避難所で私たちにできることは!」

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑫高崎学園	高崎中学校	令和5年12月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	授業中に実施時間を告げずにシェイクアウト訓練を実施。地震の際の身の守り方を確認。
	茎崎第一小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	地震想定避難訓練を実施。避難場所の確認（校庭）
		令和5年4月	教職員研修	教職員	学校の防犯状態の確認（防犯カメラの位置、敷地内に進入できる場所の確認等）危機管理マニュアルの共通理解
		令和5年6月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	高崎中との合同引渡し訓練の予定だったが悪天候のため引渡しは中止し、避難訓練のみ実施
		令和5年10月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	火災想定避難訓練を実施。また茎崎消防署の協力を得て、消火器の使い方および消火訓練を実施
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	防災バックづくりを通して、外部講師から授業を受け、防災意識を高める
		令和6年1月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	不審者が敷地内に侵入した想定で避難訓練を行う。警察署から講師を招き、防犯教室を行う

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑬虹色学園	虹色学園	令和5年4月	第1回避難訓練 地震後火災発生を想定した避難訓練	学園児童生徒565名 教職員42名	
		令和5年5月	第2回避難訓練(引渡し訓練) 様々な災害を想定した避難経路の確認および保護者への引渡し	学園児童生徒565名 教職員42名 保護者等	
		令和5年9月	第3回シェイクアウト訓練	学園児童生徒565名 教職員42名	
		令和5年12月	第4回避難訓練 不審者を想定した避難訓練	学園児童生徒565名 教職員42名	
		令和6年2月	学園防災会議	教職員8名	
	研究学園中学校	令和5年4月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	火災・地震
		令和5年5月	引渡し訓練	教職員・全校生徒・地域の方々	さまざまな災害を想定した引渡し訓練
		令和5年5月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年9月	つくばスタイル科(その他の授業・取組)	8年生	避難所運営に関する学習
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒	不審者対応・避難に関する話し合い活動

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑬虹色学園	研究学園小学校	令和5年4月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	地震・火災
		令和5年5月	引渡し訓練	教職員・生徒・保護者等	様々な災害を想定した引渡し
		令和5年9月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	シェイクアウト訓練
		令和5年11月	つくばスタイル科（その他の授業・取組）	5年生	防災マップ
		令和5年12月	避難訓練（引渡し訓練を含まない）	教職員・全校生徒	不審者対応

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑭春日学園義務教育学校	春日学園義務教育学校	令和5年5月	避難訓練及び引渡し訓練	児童生徒、教職員、保護者 合計1,900名	なし
		令和5年9月	避難訓練 シェイクアウト訓練に合わせた避難訓練	全児童生徒、教職員 合計1,150名	なし
		令和5年11月	つくばスタイル科 防災バッグ作成	3年生	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和5年12月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	国交省国土技術政策総合研究所道路地震防災研究室 長屋和宏様
		令和6年1月	避難訓練 不審者の侵入を想定した避難訓練	全児童生徒、教職員 合計1,150名	つくば警察署 生活安全課職員
⑮みどりの学園義務教育学校	みどりの学園義務教育学校	令和6年1月	引渡し避難訓練 大地震発生後、学園生の安全を確保し、保護者の皆様に確実に学園生を引き渡すことを目的とする。	学園生・教職員・保護者 合計約3,200名	

学園名	学園・学校名	日程	取組	対象者・対象学年	備考
⑩秀峰筑波義務教育学校	秀峰筑波義務教育学校	令和5年4月	避難訓練 ・火災を想定した訓練	合計1,120名	
		令和5年7月	避難訓練 引渡し訓練 ・竜巻を想定した訓練 ・保護者引渡し訓練 ・防災に関する学習	合計1,850名	なし
		令和5年12月	避難訓練 ・不審者侵入を想定した訓練	合計1,120名	なし
⑪学園の森義務教育学校	学園の森義務教育学校	令和5年4月	第1回避難訓練 地震後火災発生を想定した避難訓練	学園児童生徒1,797名 教職員130名	なし
		令和5年5月	第2回避難訓練 引渡し訓練(1～6年)	学園児童1,387名 教職員90名 保護者・児童クラブ	なし
		令和5年12月	第3回避難訓練 不審者を想定した避難訓練	学園児童生徒1,801名 教職員130名	つくば警察署
		令和5年12月	つくばスタイル科 講話等の聴講	3年生	つくば消防署
		令和5年12月	避難訓練(引渡し訓練を含まない)	教職員・全校生徒・地域の方々	不審者対応・つくば警察署
		令和6年1月	つくばスタイル科 防災マップ作成	5年生	3年生へ向けた発表

令和5年度(2023年度)の事業報告(各学園の取組) 成果と課題

学園名	成果	課題
1 大穂学園	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに引渡し訓練を行うことで、小中に兄弟姉妹がいる家庭での避難の仕方を確認することができた。また、専門家から助言をいただき、普段の危機意識につなげることができた。 ・学校の防災施設について、地域住民とともに確認し、地域が一体となった安全意識を高めることができた。 ・地域防災会議では、洪水時の危機について講義をいただき、桜川水系付近で生活する我々の危険度と安全対策について理解することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園合同引渡し訓練は、1中4小が日にちを合わせる事が難しい。本来なら4月の段階で引渡し訓練を行ったほうがよい。 ・各学校とも老朽化が進んでおり、避難所施設として機能できるか不安なところもある。 ・地域防災会議は、さらに参加者を広げることも考えられるが、会場の確保が難しい。
2 豊里学園	<p>地域防災のために、まず各自・各家庭が行うべきこと、地域が備えること等を中心にご講話いただいた。具体的に簡易トイレの使い方も取り入れ、参加者からは様々な感想や意見が出された。防災への意識が、かなり高められた。</p>	<p>今回参加された方々以外に、防災意識をさらに高めるための広報・周知について考えていきたい。コミュニティ・スクール協議会を活用し、今後何ができるかを検討していきたい。</p>
3 輝翔学園	<p>学校教職員と地域住民が一堂に会し、防災について話し合う貴重な機会となった。今回は防災倉庫収納品についてや災害時の避難の仕方、連携のあり方について具体的なレクチャーを受けることができた。地域と学校の役割分担が明確になったことが成果である。</p>	<p>参加人数が少ない状況となった。協議会の内容を検討し、区長様方の参加を促していくことが課題である。</p>
4 高山学園	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症に注意しながらの実施であったが、制限もなくなり、集団での避難等、コロナ禍以前の状況で実施できた。それによって、注意点や課題が明確になった。 ・自然災害等への意識付けにもつながった。災害発生について、場所や時間帯を考え、行動できる児童生徒の育成につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園内小中における連携についても今後さらに検討していく必要がある。 ・地域連携の学校防災連絡会議の開催方法について。(実効的な方法の検討) C S (コミュニティ・スクール) 等で防災について検討していく形でもよいのか?
5 光輝学園	<p>学園合同引渡し訓練は通常開催とした。保護者引渡しの連絡方法については、昨年度の反省から緊急情報メールが使えなくなる状況を考慮し、スクリーンや学校メールを併用してスムーズに連絡ができた。</p> <p>防災会議は年2回から年1回の対面開催とした。つくば市危機管理課職員を講師に招いた講話では、多くの質問もあり活気あふれる会議となった。また防災倉庫格納物品を確認するなど、参加者の意識を高めることができた。</p>	<p>せっかくの機会なので参加者を増やす工夫をしたい。</p>
6 洞峰学園	<p>学園の小中学校で連携を図りながら、地震を想定した引渡し訓練を行うことを通して、具体的な非常時の対応について、学園内の教職員、保護者、児童生徒が共通理解することができた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の対策が緩和され、数年ぶりの開催となった。今後も継続して引渡し訓練を実施することで非常時に備えていきたい。</p>
7 桜学園	<p>桜学園防災会議では、長坂先生に講演していただいた。大変有意義な講演であり、参加した地域住民からは地域に伝えたいという感想があった。教職員、地域住民ともに防災意識を高めることができた。</p>	<p>引渡し訓練では保護者が早く引取りに来るとは限らないため、待機時間が長引いた場合にどうするかが課題である。</p>

学園名	成果	課題
8 竹園学園	引渡し訓練では、地震が起こったと想定しての避難訓練であり、徒歩での来校、引渡しを行った。教職員、保護者とも実際にどのくらいの時間がかかり、どのようなルートで帰宅するのか、考えるよい機会となった。親と子で災害に対して考えることで、より危機感を感じられた。学校防災連絡会議では、実際に災害が起こった時、学校・地域は何をすべきか、何ができるか考える機会となった。	実際に災害が起こった場合、保護者と連絡がつかないことも考えられる。いかにして早急に連絡を取り合っていけばよいのかを考えたい。避難訓練時でも親との事前の連絡と違うことが見られ、特に児童が戸惑ってしまっている状況も見られたため、実際の災害の際いかにスムーズな引き渡しや避難ができるかが課題である。
9 桜並木学園	講師の講話からは、近年の地震災害の状況と、その災害時における学校対応の課題について学ぶことができた。また、地震によって、本校並木学園地区において生じるであろう災害についても知ることができた。 協議・意見交換では、学校の避難訓練の在り方について質疑がなされ、訓練のよりよい在り方を今後とも考えていくことや危機管理マニュアル等の見直しすることの大切さを再認識することができた。	連絡会の内容の検討や、それに合う講師を探すのに苦労しました。講師謝礼も限られているので、予算内で招聘できる講師のリスト等があるとありがたいです。また、学校も含め連絡会の参加者が固定されないので、学んだことの積み重ねがなされにくい点が課題と感じました。
10 吾妻学園	今年は数年ぶりに宿泊を伴った防災キャンプが実施できた。日帰りで帰る児童、宿泊する児童と、自由に選択できるようにしてあったので、多数の児童、保護者、関係者が参加することができた。次年度も継続できればよいと考える。 また、吾妻学園として中学生の参加もあった。部活動がある関係で、たくさんではなかったが、数名の参加があり、小中学生の交流ももつことができた。	さらに多くの児童生徒、保護者に参加してもらうためのアナウンス方法、時期について検討したい。
11 荃崎学園	「地域の防災に学校が何をしてくれるのか」「学校が何をしてほしいのか」という協議ではなく、児童生徒、学校の防災力向上に地域が何ができるかという視点で協議ができた。 荃崎学園学校防災連絡会議で長屋和宏主任研究官からより具体的に「家庭での備蓄」や「トイレの防災」について講話していただいたので、充実した会議になった。	・児童生徒の防災力向上に学校防災手帳が有効であるという話が上がった。令和6年度に作成を希望したい。
12 高崎学園	5年生の防災マップ作りや9年生の避難所でできることなど、災害発生時に自分たちができることについて考えを深めることができた。防災連絡会議を各種行事の影響を受けない7月下旬に実施することができた。	今年度は合同引き渡し訓練を暴風雨が予想されたため、前日に中止を決定し実施することができなかった。災害時は悪天候の場合も十分考えられるので悪天候時の引き渡し方法も今後検討する。
13 虹色学園	新設校のため、避難訓練を実施し児童生徒も教職員も避難経路を確認することができた。また、実際に行うことで、避難経路の課題や引き渡し時の課題などに気づくことができた。さらに、中学生は実際に訓練を行うことで見えた課題に対して、グループで話し合い、改善するためにどうすべきかを考え、まとめたワークシートを廊下に掲示することで、全員で共有することができた。また、さすまたやハンドマイク用電池等の備品の必要性について意見があがった。	計画では、円滑に避難ができるとされていた避難経路も実際に動いてみると、混雑してしまい課題が見つかった。担当職員で話し合い、教室の場所によって避難する時に使う階段を決めることで、次年度実施し、より安全な避難経路を決定したい。さらに、児童生徒が災害時に自分で考えて身を守ることができるように、中学生が話し合った内容を小学校へも共有し、共に考える機会を作っていきたい。
14 春日学園義務教育学校	緊急時の連絡・誘導系統の確認ができた。 避難経路の確認ができた。 保護者へ無事に引き渡し、災害時に安全な下校を行う訓練となった。 保護者との連携を確認することができた。 職員の不審者への対応の方法について、実践を伴う研修を実施することができた。	教室からの避難方法については、児童生徒も理解できたので、特別教室やトイレ、体育館等にいた場合は、どのように行動したらよいか考えさせる。 地震、火災、ミサイル、竜巻、不審者等、状況に応じた身の守り方ができるように指導と訓練を積み重ねていく。

学園名	成果	課題
15 秀峰筑波義務教育学校	引渡し訓練は、学校創立以来2回目の全校児童生徒を一斉に保護者に引き渡す訓練であった。コロナ禍の中、実施できていなかった引渡し訓練のため、教職員にとって貴重な経験となった。学区が広範囲で保護者の多くは自家用車で来校したため、学校周辺の道路の混雑状況や駐車場への出入りの様子を確認できた。また、1,000人を超える児童生徒を引き渡すのに対応する時間等のデータを得ることができた。	火災を想定した避難訓練は避難経路の確認と全校児童生徒の避難場所に来るまでの時間を知るのによい機会となった。しかし、学校単独での実施であったので、次回は消防署と連携することで、火災の初期消火に向けた消火器の使用の確認や煙体験など児童生徒にとってより実践的な経験になるようにしていきたい。また、12月の不審者対応の避難訓練も校内で教職員のみの実施であったので、教職員がより実践的に対応できる力を身に付けられるよう警察署と連携していきたい。
16 学園の森義務教育学校	第1回では、地震直後の避難行動と避難経路の確認を主たる目的として実施した。1,800名近い学園生が速やかに避難することができた。第2回では、前期課程（小学生）対象で引き渡し訓練を実施した。昨年度に続いて雨天での訓練となったが、校舎内での引き渡しをスムーズに行うことができた。第3回では、つくば警察署から講師を3名招いて、実施した。不審者対応について動画撮影し、対応した教師以外も、講師（警察官）からの指導を研修できるように配慮した。校舎が大きいので、初期対応と連絡系統の確認ができたのが成果である。	地域との連携以前に、1年生と9年生の発達段階に差がある学園生に対して、どのような形で訓練を実施することが有効かという点が課題である。不審者対応については、初期対応と連絡系統の確認ができたが、対応者、避難誘導者、指揮命令者、通報者などの連携や共通認識において課題が見えた。来年度に向けて継続的に改善していきたい。また、実施時期についても、不審者対応は12月でよいのかという課題があり、他の学校行事との調整が難しいところである。
17 みどりの学園義務教育学校	学園生、保護者を含め3,000名を超える人数での実施となった。避難経路の中でも他学年同士が合流する段階であっても、比較的混乱することなく避難することができた。引渡し避難訓練実施後の別の訓練の際には、前回の行動経験が活かされ、より迅速に避難することができた。引渡しを各教室で行ったことにより、担任が確実に引取り者に引渡すことができた。	引渡し場所を校庭にした場合、前期課程、後期課程の学園生が全員並び、学級表示があっても混雑すると予想される。場面によって、校舎内に留まることができない場面を想定しての訓練も必要である。事前に実施日時を通知しての訓練であったため、保護者の学園生引き取りまでに長い時間が掛かってしまうことは無かった。実際に自然災害が起こり、突発的に引き渡さなければならないとなった際、通信手段が絶たれ、連絡を取ることができない等の非常時の事態についても具体策を講じる必要がある。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の連絡・誘導系統の確認ができた。避難経路の確認ができた。保護者へ無事に引き渡し、災害時に安全な下校を行う訓練となった。保護者との連携を確認することができた。職員の不審者への対応の方法について、実践を伴う研修を実施することができた。（春日学園） 地域防災のために、まず各自・各家庭が行うべきこと、地域が備えること等を中心にご講話いただいた。具体的に簡易トイレの使い方も取り入れ、参加者からは様々な感想や意見が出された。防災への意識が、かなり高められた。（豊里学園） 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に災害が起こった場合、保護者と連絡がつかないことも考えられる。いかにして早急に連絡を取り合っていけばよいのかを考えたい。避難訓練時でも親との事前の連絡と違うことが見られ、特に児童が戸惑ってしまっている状況も見られたため、実際の災害の際いかにスムーズな引き渡しや避難ができるかが課題である。（竹園学園） 引渡し場所を校庭にした場合、前期課程、後期課程の学園生が全員並び、学級表示があっても混雑すると予想される。場面によって、校舎内に留まることができない場面を想定しての訓練も必要である。事前に実施日時を通知しての訓練であったため、保護者の学園生引き取りまでに長い時間が掛かってしまうことは無かった。実際に自然災害が起こり、突発的に引き渡さなければならないとなった際、通信手段が絶たれ、連絡を取ることができない等の非常時の事態についても具体策を講じる必要がある。（みどりの学園）

地震を想定したショート防災訓練の実施について

背景

6月28日に開催された「つくば市学校防災推進委員会」において、避難訓練に関する意見交換がなされ、特に地震を想定したシナリオ型の防災訓練についての問題提起がなされた。

ほとんどの学校で実施されているシナリオ型の防災訓練は、授業時間中に地震が発生したとして校内放送で通知がなされ、その後には校庭等に移動する流れとなっている。また、訓練の実施は、詳細な時刻までが児童生徒に事前通告されている。

しかしながら、実災害の発生時に停電で放送機器は使用できるか、悪天候時の校庭移動はどうするか、そもそも教室にいるときに地震が発生するとは限らない、等の意見が各委員より出された。

これらの背景より、児童生徒が何時においても地震の揺れから身を守る行動を取れるようにする事を目的とした避難訓練を吾妻小学校および沼崎小学校の協力を得て実施した。

訓練の実施方法

訓練実施回数：2回（それぞれの回の実施内容は下記の通り、実施間隔は1週間程度）

訓練実施の告知：【本日中に地震の避難訓練を行う、それぞれ身を守る行動を取るように】程度の告知を訓練実施日の朝に行うが、詳細な時刻等は事前告知しない。

訓練開始（地震発生）の通知：

1回目：教室で過ごしている時間の地震発生を想定し、授業中に地震発生を放送で通知する

2回目：教室外で過ごしている時間の地震発生を想定し、業間休み等に地震発生を放送で通知する

訓練終了の通知：いずれの回も訓練開始の通知（放送）から概ね1分経過後に「地震の揺れが収まり、訓練を終了」を通知。そのまま、元の活動に戻る。

留意点：訓練の詳細な実施時刻は告知しないため、児童生徒が不意を突かれ、慌てた行動による事故等とならないように留意する。

具体的には、低学年等では訓練の実施を適宜意識させる。また、2回目の業間休みの訓練では、教室からの移動等の児童の動きがある程度、確定した状況を確認して実施する。特に低学年等では、【机の中に入る】の意識が強く残り、2回目の訓練時にも教室の机に向かって走り出す行動が懸念されるため注意する。また、慌てて遊具から飛び降りようとする行動等にも注意する。

実施日：沼崎小学校 1回目 1月10日（水） 2回目 1月19日（金）

吾妻小学校 1回目 1月15日（月） 2回目 1月19日（金）

なお、両校とも9月のシェイクアウト訓練を実施している（授業時間内）。また、沼崎小学校では、11月20日（月）に上記の2回目に相当する訓練を実施している。

訓練結果のとりまとめ

訓練当日（2回目）は、国総研 長屋主任研究官および教育総務課職員が視察し、2回目の訓練実施後にそれぞれの小学校の5・6年生にアンケート調査を実施した。

●児童のアンケート結果

- ・「訓練時にどこにいたか」「訓練時にどんな行動をとったか」「学校生活で、どんな場面（時間）での避難訓練が必要だと思うか」という設問のアンケートを実施した。
- ・いずれの設問についても、学校の違いによる明確な差異は認められなかった
- ・教室等にいた児童は、1回目の訓練同様に机の下に入る行動等が、教職員の声掛けがなくても自ら取ることができていた。
- ・体育館、グラウンドにいた児童の多くは、それぞれの中央に集まって姿勢を低くしたと回答しているが、周辺の様子に注意したとの記載は見られなかった
- ・廊下等にいた児童は、「ガラスから離れ、上に何も無いところでしゃがんだ」「窓や上から落ちてくるもの、倒れるもの等から離れ、頭を守ってしゃがんだ」等、周囲の様子に注意しながら身を守る行動を取っていたことがうかがえた。
- ・学校生活のどんな場面（時間）での避難訓練が必要だと思うかの設問では、【給食の時間】と答える児童が最も多く、その理由としては「給食中は机の上に沢山物が乗っているから」、「(準備中は)先生が教室にいないこともあるから」等の意見が聞かれた。
- ・この他、登下校中、理科・図工・体育等の特別教室や体育館での授業中等の意見が寄せられた。さらに、(運動会等の)行事の実施中、プールの時間中や調理実習中等特定の危険を想定した意見も出された。

●先生の意見

【吾妻小】

- ・教室内の児童は、これまでの訓練で慣れていたことから、特段の指示をすることなく、机の下に入り身を守る姿勢をとることができていた。
- ・体育館で地震が発生した時の動きは、不徹底であると改めて感じた。身を守るためのポイントを整理した上で、伝える必要がある。
- ・また、大人の目が届かない登下校中に地震が発生した場合についても、身の守り方を伝えておく必要がある。

【沼崎小】

- ・11月に実施した際にも教室内の児童は、机の下に入り身を守る行動ができていた。
- ・一方、校庭にいた児童は、11月の1回目の訓練では、ほとんどが急いで校舎に入ろうとしていたが、2回目となる1月の訓練では、全ての児童が校庭の中央に移動してしゃがむ姿勢を取っていた。同様に、教職員がいない教室以外の場所では、1回目は担任のいる教室に戻ろうとしている児童がいたが2回目には落ち着いてその場で安全な避難行動がとれていた。
- ・なお、教室でも防災頭巾を被ることができなかつたり、下靴に履き替えて外に出ようとしたりする児童がいる等のいくつかの課題が確認された。今後も安全な行動は何か考える機会を持つことが必要である。

●視察で見られた様子

- ・いずれの学校も「周りの安全を確認する」「姿勢を低くして動かない」の行動が非常に良く浸透していた。
- ・沼崎小と吾妻小では、沼崎小では11月に一度実施していることもあり、比較的児童の動き

が落ち着いているように思われた。

総括

時間を特定せず、学校生活のあらゆる場面を想定した訓練としては、教職員、児童ともにその重要性、必要性を認識する結果であった。

いくつかの留意点はあるものの訓練自体は比較的短時間で実施可能であり、定期的に繰り返し実施することも可能である。

今回の吾妻小、沼崎小における訓練実施要領等を活用して簡易なマニュアル等を作成し、他の小中学校への水平展開を図ることが望まれる。